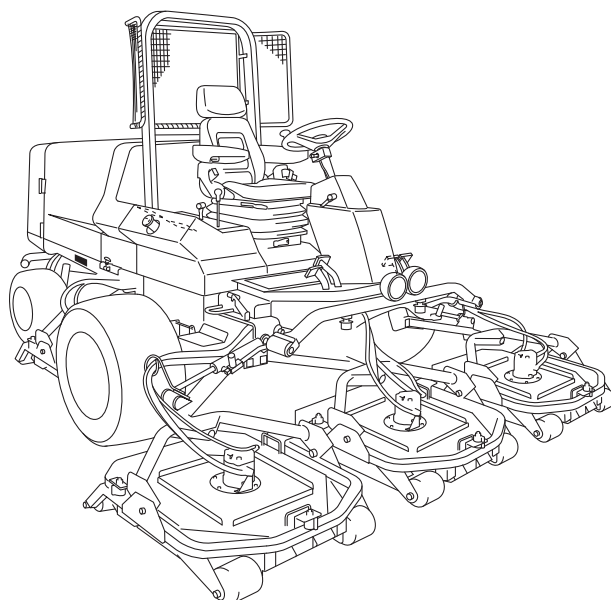


GM2800B

乗用 5 連ロータリーモア

取扱説明書



Serial No. GM2800B : 12371-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

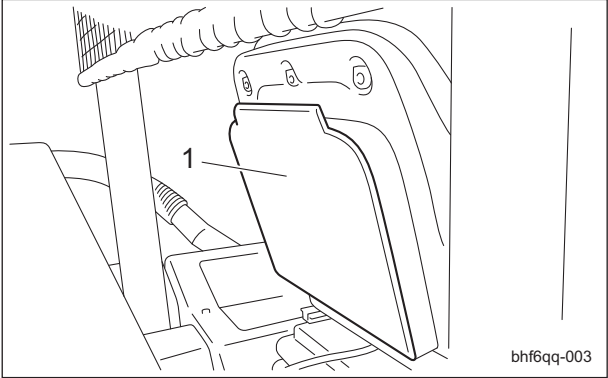
Ver.1.5

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

取扱説明書の保管場所

本書は、シート後ろのボックスにて保管してください。



取扱説明書の保管場所_001

1	ボックス
---	------

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡ししてください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 696cq5-001	危険警告記号
この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。	
 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。  警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。  注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。 重要 製品の構造などの注意点を示しています。	

はじめに

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書
- ・ バッテリーの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
規制ラベル	Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の点検	Page 4-2
締め付けトルク	Page 4-12
使用前の調整	Page 4-16
エンジン始動・停止方法	Page 4-19
各部の操作方法	Page 4-21
各部の計器	Page 4-30
移動	Page 4-32
刈り込み	Page 4-34
運搬	Page 4-34
長期保管	Page 4-34
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-2
ジャッキアップ	Page 5-4
グリースアップ	Page 5-5
メンテナンスの方法	Page 5-9

目次

安全上の注意事項 Page 1-2

トレーニング Page 1-2

運転の前に Page 1-2

運転操作 Page 1-3

保守と保管 Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
特に以下の点についての十分な指導が必要です。
 - [1] 乗用機械を取り扱うときは注意と集中が必要である。
 - [2] 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。
斜面で制御不能となる主な原因：
 - タイヤのグリップ不足
 - 速度の出しすぎ
 - 不適切なブレーキ操作
 - 不適当な機種選定
 - 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
 - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。

6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. ROPS は、転倒時保護装置です。
ROPS を取り外したり変更しないでください。
8. 損傷した ROPS は交換してください。
修理や改造をしないでください。
9. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
10. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。

6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。
9. 使用前にロータリーナイフ、ナイフ取り付けボルト、ナイフ取り付け部品を目視で点検してください。
バランスを狂わせないようにするために、損傷したナイフとボルトはセットで交換してください。
10. 複数のロータリーナイフを持つ機械では、1つのナイフを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
5. グラスキャッチャーや他の作業機を使用して機械を操作しているときは、特別な注意を払ってください。
それらは機械の安定性に影響することがあります。
6. ロータリーナイフ駆動中には、絶対にモアユニットを上げないでください。
7. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。
正しく調整した状態で使用してください。
8. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
9. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。

- [1] 平らな場所に停止する。
- [2] 作業部の動力を遮断し、作業部を下げる。
- [3] 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
- [4] エンジンを止め、キーを抜き取る。

10. 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください。

- [1] 燃料を給油するとき。
- [2] 刈高を調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
- [3] 詰まりを取り除くとき。
- [4] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
- [5] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。

11. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
12. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
13. オペレーター以外の人を乗せないでください。
14. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
15. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
16. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
運転席に着座し、エンジンを始動してください。
シートベルトがある場合は着用してください。
4. 「安全な斜面」はありません。
芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
 - [1] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [2] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [3] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
 - [4] 凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
 - [5] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
 - [6] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。

17. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業機への駆動を止めてください。
18. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。
また作業中は機械に人を近づけないでください。
19. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
20. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
21. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
22. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
23. わき見運転、手放し運転はしないでください。
24. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
25. 落雷の恐れがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。
4. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
5. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
6. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
7. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
8. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
9. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
10. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
11. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
12. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
13. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
14. 油圧機器を取り外すなど、油圧系統の整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
15. 油圧系統のラインコネクターは十分に締まっているかを確認してください。
油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
16. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。
高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故をおこすおそれがありますので、十分注意してください。
万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
17. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。
先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。
取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
18. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
19. ロータリーナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。

[1] 必ず手袋を着用してください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を下げ、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し、作業を行ってください。
2. 機械から離れるときには必ずモアユニットを下げておいてください。
ただし、モアユニットを上げた位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
3. 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。

- [2] 悪くなったロータリーナイフは必ず交換してください。
- [3] 絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
- 20. 複数のロータリーナイフを持つ機械では、1つのナイフを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
- 21. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
- 22. バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。
バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。
また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶縁された工具を使用してください。
- 23. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
- 24. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
- 25. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。
- 26. エンジンクーラントを飲み込むと、健康に害を及ぼしたり死を引き起こすことがあります。
子供やペットの手の届かないところに保管してください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2



リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
各部の名称	Page 3-3
規制ラベル	Page 3-3
規制ラベル貼付位置	Page 3-3
規制ラベルの説明	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-4
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-6

製品概要

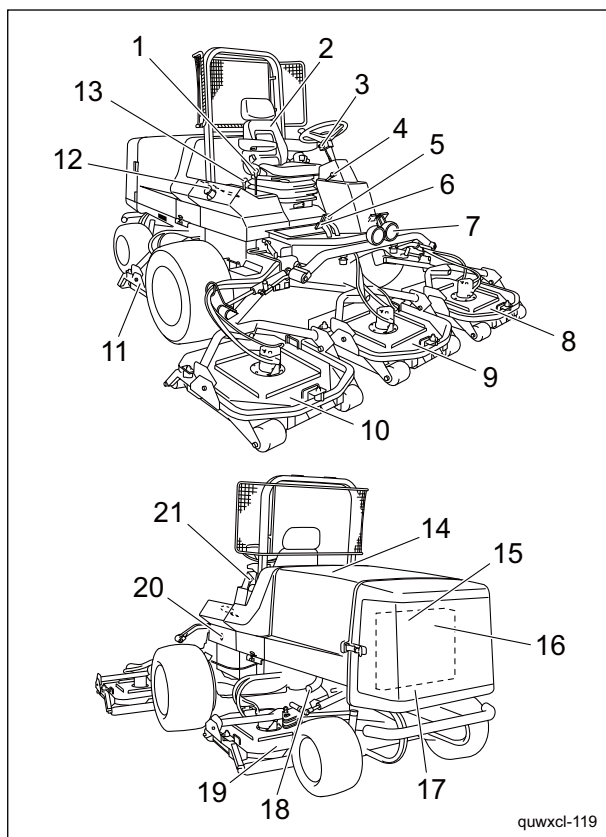
仕様

仕様表

型式			GM2800B
寸法	全長		370 cm
	全幅	作業時	300 cm
		移動時	230 cm
	全高	ルーフ	230 cm
		ハンドル	165 cm
質量	本体（燃料タンク空）	ロールバー有、日除け有	2,044 kg
最小回転半径			320 cm
エンジン	型式		Kubota V2403-M-T
	種類		立形水冷 4 サイクルターボチャージャー付ディーゼルエンジン
	総排気量		2,434 cm ³ （2.434 L）
	最大出力		41.7 kW（56.7 PS）/2,600 rpm
燃料タンク容量			軽油 51.0 dm ³ （51.0 L）
燃料消費率			272 g/kW・h（定格出力時）
エンジンオイル容量			9.7 dm ³ （9.7 L）
冷却水容量			12.0 dm ³ （12.0 L）
油圧タンク容量			44.0 dm ³ （44.0 L）
作業幅（刈幅）			280 cm
作業範囲（刈高）			20.0 - 91.5 mm
ナイフ			5 枚
駆動方式	走行		HST（無段変速）方式（2 駆・4 駆切り替え）
	作業部		油圧方式
速さ（HST）	前進		0 - 16.0 km/h
	後進		0 - 6.0 km/h
速さ（メカ）			-
能率			20,160 m ² /h（9.0 km/h x 刈幅 x 0.8）
使用最大傾斜角度			15 度
タイヤサイズ	前輪		29 x 14.00 - 15
	後輪		20 x 12.00 - 10
タイヤ空気圧	前輪		150 kPa（1.5 kgf/cm ² ）
	後輪		140 kPa（1.4 kgf/cm ² ）
バッテリー			105D31R
スパークプラグ			-

出荷時のエンジン最高回転速度は、2,600 rpm

各部の名称

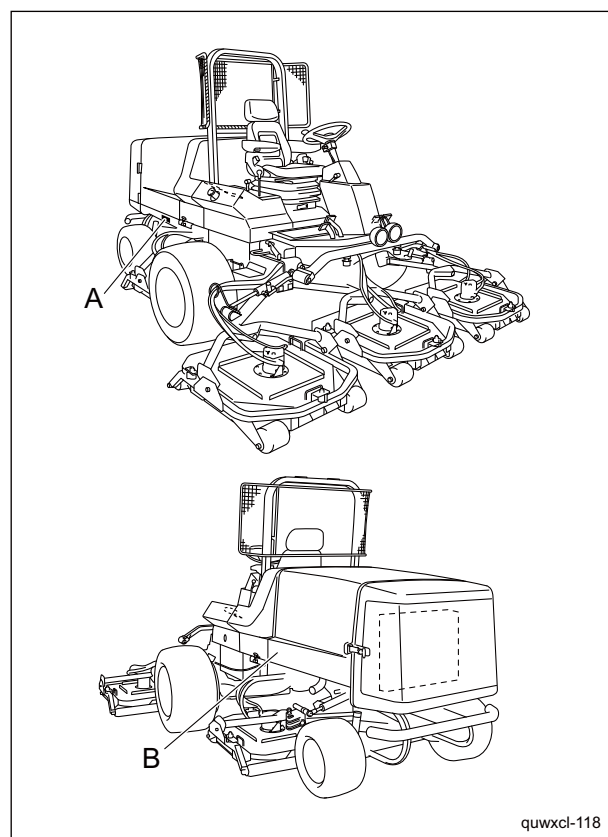


各部の名称_001

1	モアデッキ昇降レバー
2	シート
3	デフロックスイッチ
4	チルトレバー
5	前進ペダル
6	後進ペダル
7	ライト
8	#5 モアデッキ
9	#1 モアデッキ
10	#4 モアデッキ
11	#2 モアデッキ
12	燃料給油口
13	スロットルレバー
14	ボンネットカバー
15	ラジエター
16	オイルクーラー
17	ラジエターカバー
18	マフラー
19	#3 モアデッキ
20	油量ゲージ
21	駐車ブレーキレバー

規制ラベル

規制ラベル貼付位置



規制ラベル貼付位置_001

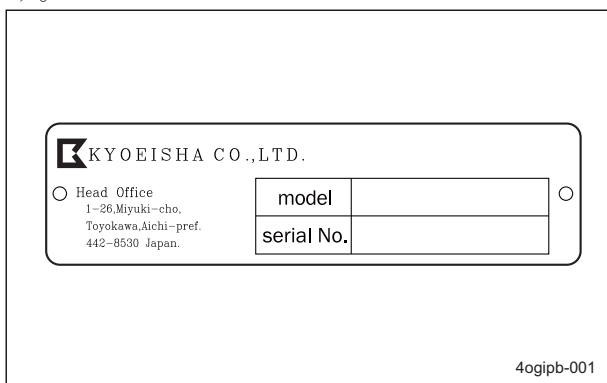
A	機番プレート
B	排ガス規制ラベル

製品概要

規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

排ガス規制適合ラベル

基準適合標示マークです。
規制適用日以降に製作または輸入された特定特殊自動車は、基準適合表示などが付されたものでなければ日本国内で使用できません。



排ガス規制適合ラベル_001

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

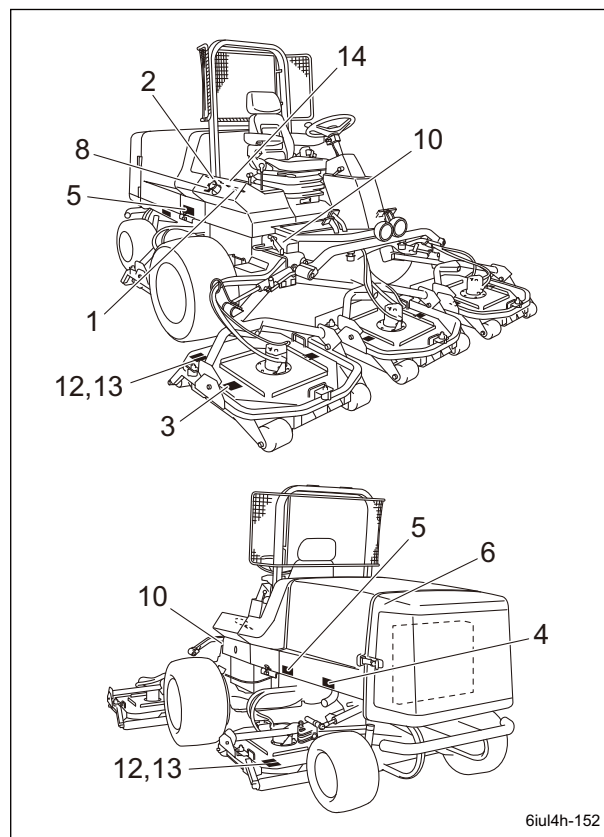
重要

この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

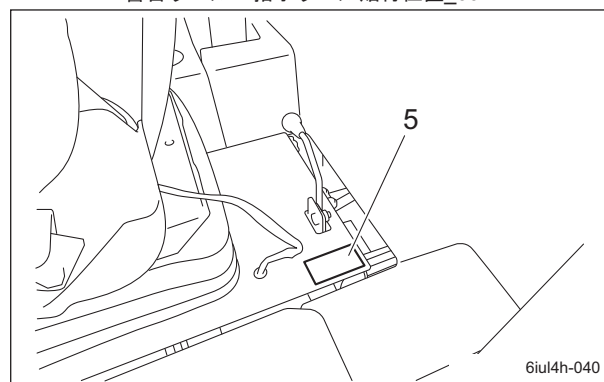
交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

購入販売店または弊社に注文してください。

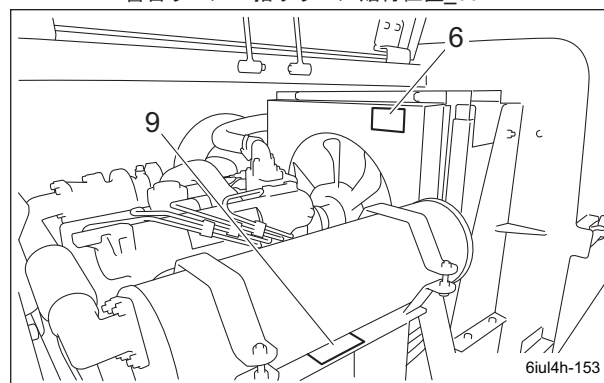
警告ラベル・指示ラベル貼付位置



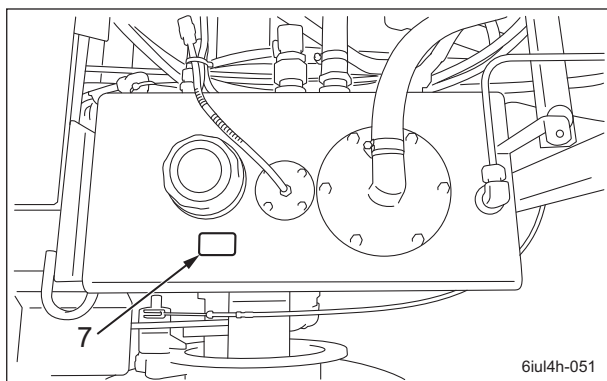
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001



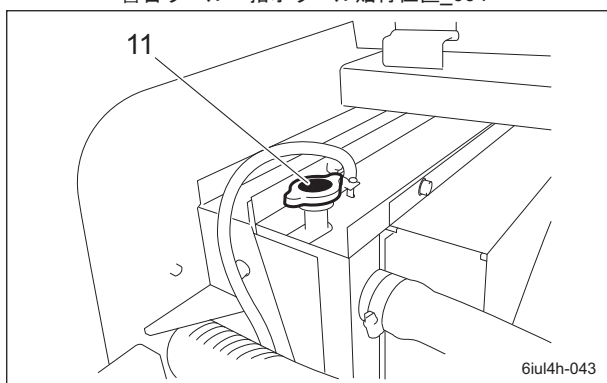
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_002



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_003



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_004



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_005

1	操作ラベル
2	始動・停止ラベル
3	切断注意ラベル
4	高温部注意ラベル
5	はさまれ注意ラベル
6	回転物注意ラベル
7	油圧作動油マーク
8	軽油給油口マーク
9	火気厳禁ラベル
10	モアロック注意ラベル
11	高温部冷却液噴出注意ラベル
12	飛散注意ラベル
13	手足切断注意ラベル
14	排ガス注意ラベル

製品概要

警告ラベル・指示ラベルの説明

操作ラベル

GM2800-0941Z0
操作ラベル

1.



警告

取扱説明書をお読みください。

2.



警告

駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから機械を離れてください。

3.



注意

飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。

4.



警告

手足を切る - 可動部品に近づかないでください。

5.

ROPS 非装着の場合：



危険

転倒 - 15 度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。
斜面を下るときは、モアデッキを下げた低速で走行してください。

ROPS 装着の場合：

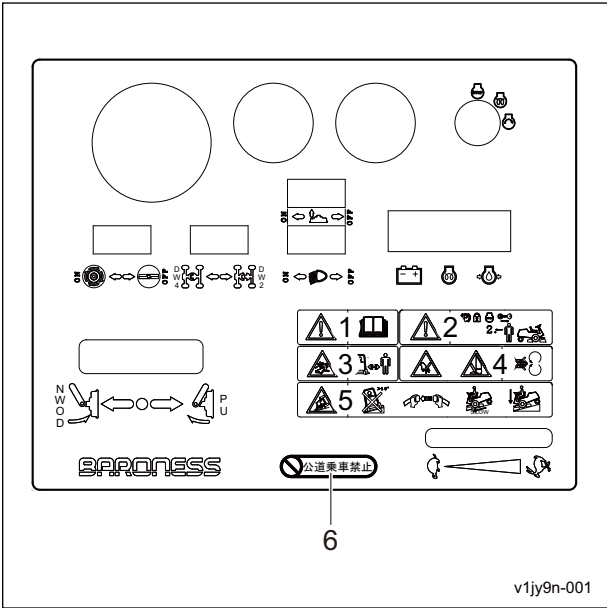


注意

転倒 - 15 度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。
斜面を下るときは、モアデッキを下げた低速で走行してください。
シートベルトを着用してください。(ROPS 装着時)

6.

(日本用)
公道乗車禁止マーク



操作ラベル_001

始動・停止ラベル

K4205001630
始動・停止ラベル

1.



取扱説明書をお読みください。

2. エンジン始動手順

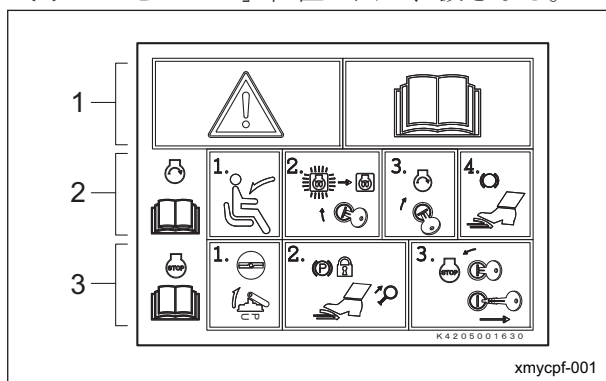
取扱説明書をお読みください。

- [1] 着座する。
- [2] キーを「GLOW」位置に回し、サーモスタートランプが消えるのを待つ。
- [3] 「START」位置に回す。
- [4] ブレーキペダルを踏んで駐車ブレーキを解除する。

3. エンジン停止手順

取扱説明書をお読みください。

- [1] ナイフ回転スイッチを切り、モアデッキを上げる。
- [2] 駐車ブレーキをかける。
- [3] キーを「STOP」位置に回し、抜き取る。



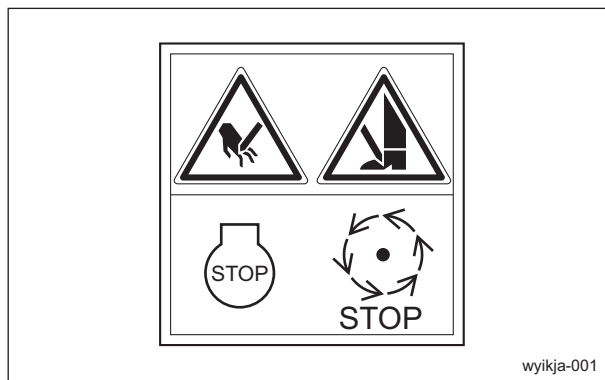
始動・停止ラベル_001

切断注意ラベル

K4205001600
切断注意ラベル



手足を切る - 刃の回転を停止し、エンジンを停止しないとケガをするおそれがあります。



切断注意ラベル_001

高温部注意ラベル

K4205001540
高温部注意ラベル



高温 - 火傷をするので、触らないでください。



高温部注意ラベル_001

製品概要

はさまれ注意ラベル

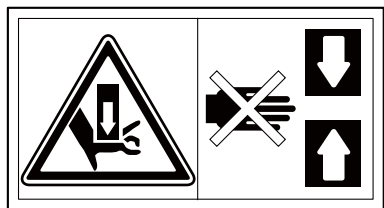
K4205001580

はさまれ注意ラベル



注意

挟まれる - 挟まれる場合があります。



tgp289-001

はさまれ注意ラベル_001

回転物注意ラベル

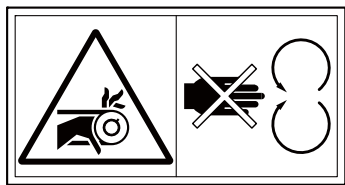
K4205001530

回転物注意ラベル



警告

回転物注意 - エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。



qwsqzx-001

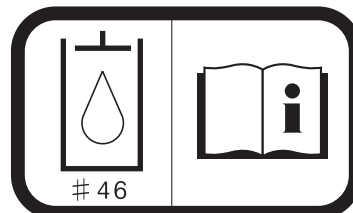
回転物注意ラベル_001

油圧作動油マーク

K4209000980

油圧作動油マーク

取扱説明書をお読みください。



i77xz6-001

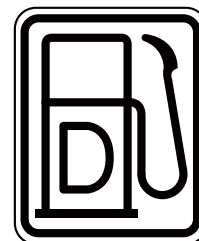
油圧作動油マーク_001

軽油給油口マーク

K4209001000

軽油給油口マーク

軽油を使用してください。



xmilt2-001

軽油給油口マーク_001

火気厳禁ラベル

K4205001940
火気厳禁ラベル



火気厳禁ラベル_001

モアロック注意ラベル

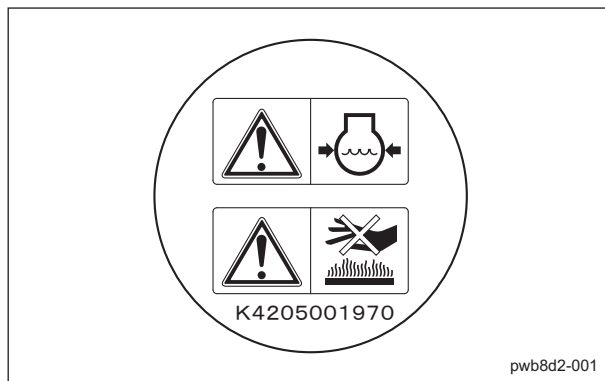
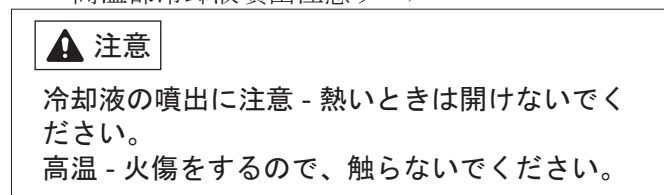
K4205001900
モアロック注意ラベル
モアデッキのロックに注意してください。



モアロック注意ラベル_001

高温部冷却液噴出注意ラベル

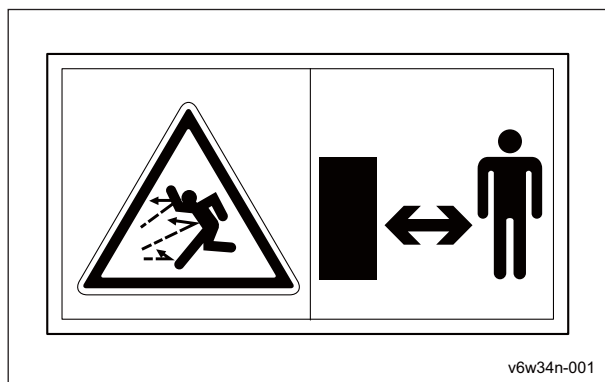
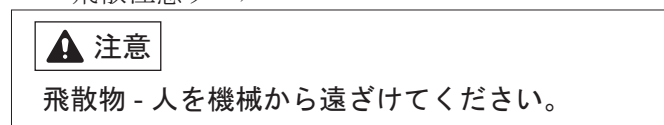
K4205001970
高温部冷却液噴出注意ラベル



高温部冷却液噴出注意ラベル_001

飛散注意ラベル

K4205001650
飛散注意ラベル



飛散注意ラベル_001

製品概要

手足切断注意ラベル

K4205001780
手足切断注意ラベル



手足切断注意ラベル_001

排ガス注意ラベル

K4205001950
排ガス注意ラベル



排ガス注意ラベル_001

取り扱い説明

使用前の点検	Page 4-2	トラクションアシストスイッチ	Page 4-26
ロータリーナイフ	Page 4-2	モアロックレバー（ラッチ）	Page 4-26
ラジエーターカバー	Page 4-2	モアデッキ昇降レバー	Page 4-26
ラジエーター	Page 4-3	スロットルレバー	Page 4-27
冷却水	Page 4-3	デフロックスイッチ	Page 4-27
オイルクーラー	Page 4-5	走行ペダル	Page 4-27
油圧作動油	Page 4-5	ブレーキペダル	Page 4-28
エアクリーナー	Page 4-6	駐車ブレーキレバー	Page 4-29
バッテリー	Page 4-7	ボンネット	Page 4-29
タイヤ	Page 4-8	シート下カバー	Page 4-30
ブレーキ	Page 4-8	各部の計器	Page 4-30
ベルト	Page 4-8	操作パネルの計器説明	Page 4-30
ワイヤー	Page 4-8	タコメーター・アワーメーター	Page 4-30
エンジン周り	Page 4-8	水温計	Page 4-31
エンジンオイル	Page 4-9	燃料計	Page 4-31
燃料	Page 4-10	パイロットランプ	Page 4-31
燃料フィルター	Page 4-10	移動	Page 4-32
油漏れ	Page 4-11	移動操作	Page 4-32
締め付けトルク	Page 4-12	けん引方法	Page 4-32
標準締め付けトルク	Page 4-12	刈り込み	Page 4-34
重要締め付けトルク	Page 4-14	刈り込み操作	Page 4-34
使用前の調整	Page 4-16	運搬	Page 4-34
ハンドルの調整	Page 4-16	運搬方法	Page 4-34
シートの調整	Page 4-16	長期保管	Page 4-34
刈高の調整	Page 4-17	長期保管について	Page 4-34
エンジン始動・停止方法	Page 4-19		
エンジン始動・停止	Page 4-19		
安全装置について	Page 4-20		
警報装置について	Page 4-20		
各部の操作方法	Page 4-21		
機械を離れるときの注意	Page 4-21		
操作ラベル貼付位置	Page 4-21		
操作ラベルの説明	Page 4-21		
近接センサー	Page 4-24		
リレー	Page 4-24		
ナイフ回転スイッチ	Page 4-25		
2WD - 4WD 切り替えスイッチ	Page 4-25		
ライトスイッチ	Page 4-25		

取り扱い説明

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

ロータリーナイフ

ロータリーナイフの点検

注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

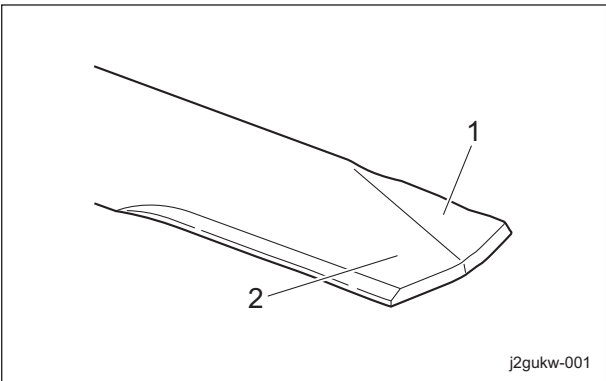
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中の損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。
点検をし、必要に応じてロータリーナイフを研磨、およびバランス取り、または交換をしてください。

重要

乾燥した土や砂を含んだ場所での使用は、ロータリーナイフの磨耗が早いいため、頻繁に点検をしてください。

- 1. ロータリーナイフが曲がっていないか確認してください。
- 2. ロータリーナイフが欠けていないか確認してください。
- 3. ロータリーナイフの磨耗量を確認してください。
- 4. ロータリーナイフが片減りしていないか確認してください。
- 5. ロータリーナイフの取り付けボルトが緩んでいないか確認してください。
- 6. ロータリーナイフのセイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが無いか確認してください。



ロータリーナイフの点検_001

1	セイル部
2	平坦部

ラジエーターカバー

ラジエーターカバーの点検

- 1. ラジエーターカバーに損傷が無いか確認してください。
- 2. ラジエーターカバーに汚れが無いか確認してください。

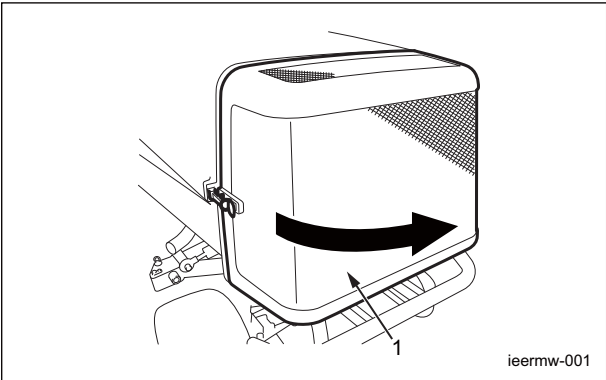
ラジエーターカバーの清掃

重要

清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

ラジエーターカバーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

- 1. ラジエーターカバーを開けてください。



ラジエーターカバーの清掃_001

1	ラジエーターカバー
---	-----------

- 2. ラジエーターカバーの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

ラジエーター

ラジエーターの点検

1. ラジエーターに損傷が無いか確認してください。
2. ラジエーターに汚れが無いか確認してください。

ラジエーターの清掃

重要

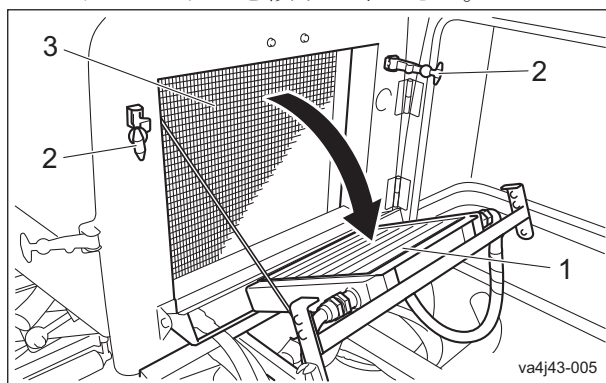
清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

重要

ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバーなどの固いものおよび、高圧洗浄で清掃しないでください。
特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

ラジエーターに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。
2. オイルクーラーの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラーを傾けてください。



ラジエーターの清掃_001

1	オイルクーラー
2	ゴムキャッチ
3	ラジエーター

3. ラジエーターの裏表を水または圧縮空気ですばりに清掃してください。

冷却水

冷却水の点検

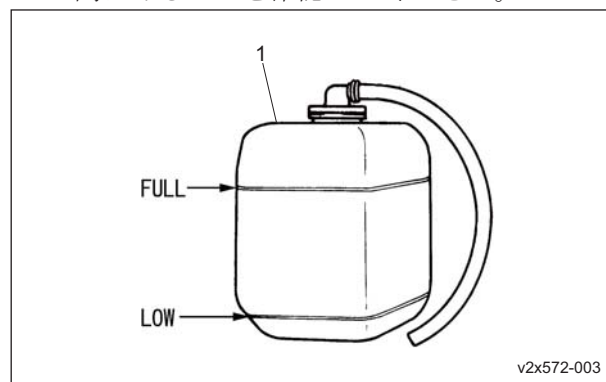
⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。
高温のため火傷をするおそれがあります。

⚠ 注意

点検はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

1. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。



冷却水の点検_001

1	リザーブタンク
---	---------

取り扱い説明

冷却水の補給

 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

 注意

補給はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

 注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が吹き出し、火傷をするおそれがあります。水温および、圧力が下がってからキャップを厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

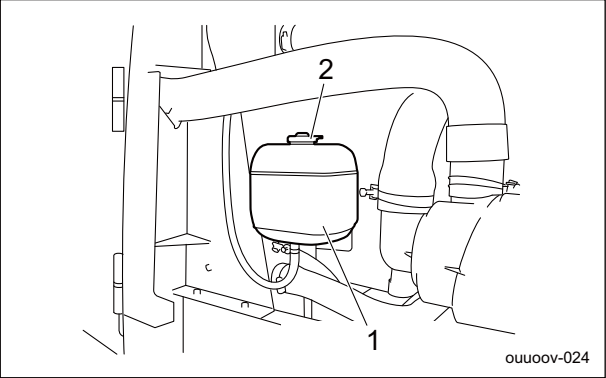
 重要

冷却水を補給する場合は、必ず水道水などのきれいな水を使用してください。

 重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンが過熱する可能性があります。

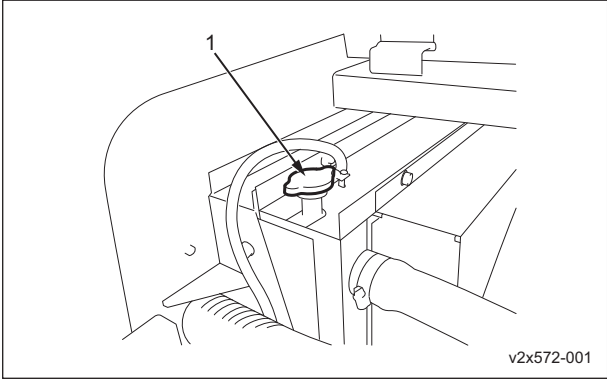
1. リザーブタンクの冷却水が「LOW」以下の場合、リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給_001

1	リザーブタンク
2	リザーブタンクキャップ

2. リザーブタンクの冷却水が無い場合は、以下の要領できれいな水を補給してください。
- [1] ラジエーターキャップを開け、口元まできれいな水を補給してください。
- [2] リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給_002

1	ラジエーターキャップ
---	------------

オイルクーラー

オイルクーラーの点検

1. オイルクーラーに損傷が無いか確認してください。
2. オイルクーラーに汚れが無いか確認してください。

オイルクーラーの清掃

重要

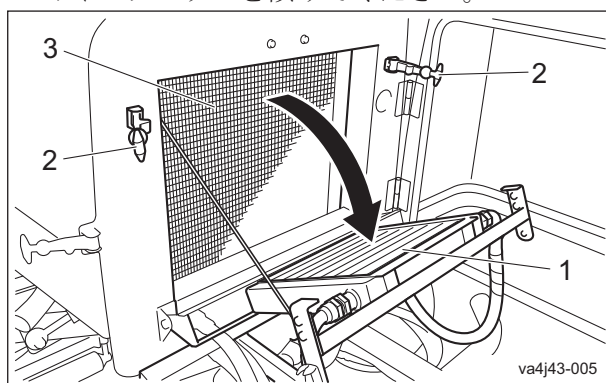
清掃をしないと、油圧機器の故障の原因になります。

重要

ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバーなどの固いもののおよび、高圧洗浄で清掃しないでください。
特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

オイルクーラーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。
2. オイルクーラーの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラーを傾けてください。



オイルクーラーの清掃_001

1	オイルクーラー
2	ゴムキャッチ
3	ラジエーター

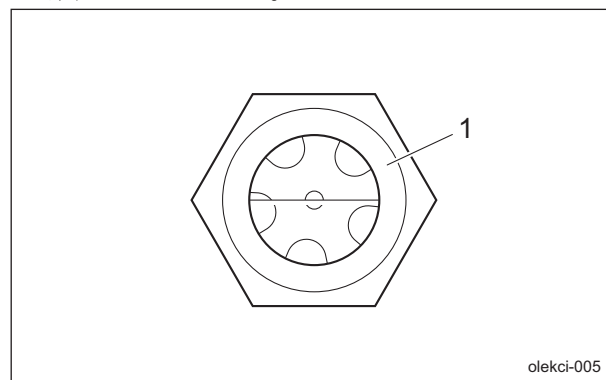
3. オイルクーラーの裏表を水または圧縮空気ですばりに清掃してください。

油圧作動油

油圧作動油の点検

油量ゲージは、油圧タンクの側面にあります。

1. 水平な場所でモアデッキを上げた状態にしてください。
2. 作動油が油量ゲージの中心まで入っているか確認してください。



油圧作動油の点検_001

1	油量ゲージ
---	-------

3. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

油圧作動油の補給

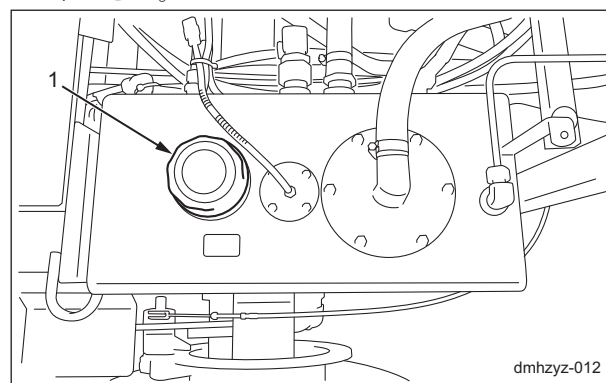
重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

1. 作動油が少ない場合は、タンクカバー左を取り外して、タンクキャップを開け、補給してください。



油圧作動油の補給_001

1	タンクキャップ
---	---------

取り扱い説明

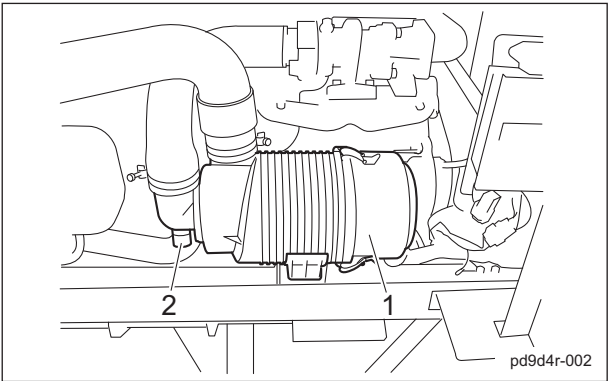
- 2. タンクキャップを確実に閉めてください。
- 3. エンジンを始動し、モアデッキを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。
前後進を数度繰り返してください。
- 4. 水平な場所でモアデッキを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
- 5. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。
- 6. タンクカバー左を取り付けてください。

エアクリーナー

エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。
エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

- 1. エアクリーナーの点検は、バキュームインディケーターで行ってください。
エアクリーナーエレメントが汚れてくると、バキュームインディケーターに赤いリングが見えてきます。



エアクリーナーの点検_001

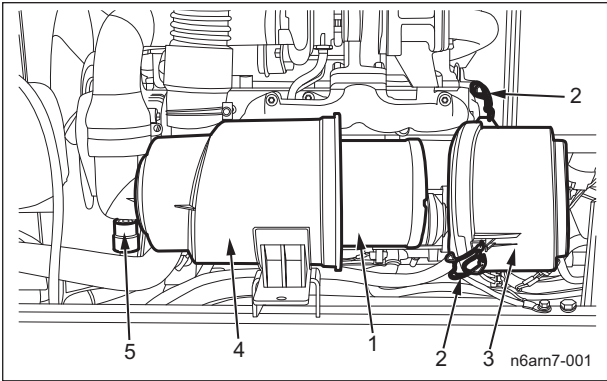
1	エアクリーナー
2	バキュームインディケーター

- 2. エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
- 3. エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。

エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

- 1. 以下の要領で清掃をしてください。
 - [1] クリップ 2 か所を外し、エアクリーナーキャップを取り外し、エアクリーナーエレメントを取り外してください。
 - [2] エアクリーナーエレメントを傷つけないように注意し、エアクリーナーエレメントの固い部分を軽く叩くか、内側から圧縮空気を吹き付けて埃や屑を取り除いてください。もし、極端に汚れている場合は、新しいエアクリーナーエレメントに交換してください。
 - [3] エアクリーナーボディにエアクリーナーエレメントを取り付けてください。
 - [4] エアクリーナーキャップを取り付け、クリップで確実に固定してください。

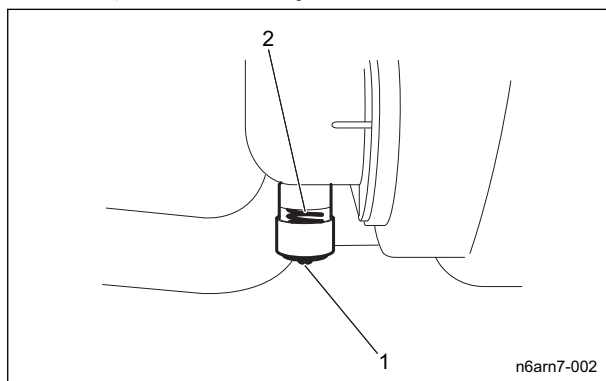


エアクリーナーの清掃_001

1	エアクリーナーエレメント
2	クリップ
3	エアクリーナーキャップ
4	エアクリーナーボディ
5	バキュームインディケーター

取り扱い説明

2. バキュームインディケーターのリセットボタンを押してください。



エアクリーナーの清掃_002

1	リセットボタン
2	バキュームインディケーター

バッテリー

バッテリーの点検

⚠ 危険

バッテリーの点検・充電は火気厳禁です。
バッテリーが爆発するおそれがあります。

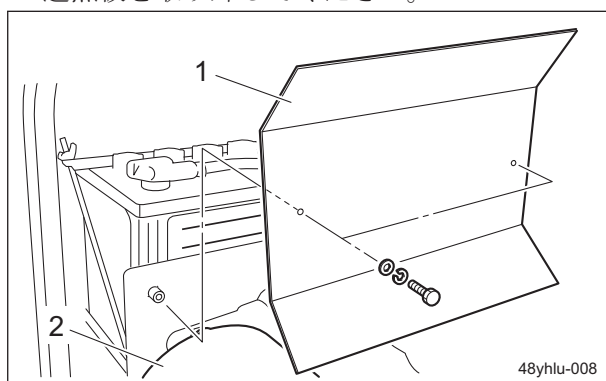
⚠ 警告

バッテリー液の液面を「LOWER LEVEL」(最低液面線) 以下にしないでください。
バッテリー液の液面が「LOWER LEVEL」(最低液面線) になったまま使用または、充電するとバッテリーが爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

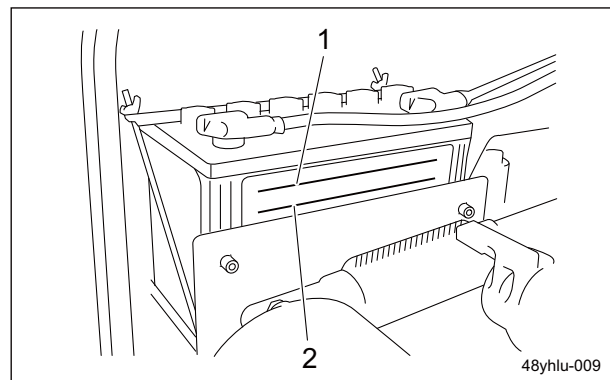
1. 遮熱板を取り外してください。



バッテリーの点検_001

1	遮熱板
2	マフラー

2. 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。
3. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」(最高液面線) と「LOWER LEVEL」(最低液面線) の間にあることを確認してください。



バッテリーの点検_002

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

バッテリー液の補給

⚠ 危険

バッテリー液が身体や目、服などに付着したり、飲んだりしないように注意してください。
バッテリー液が身体や服に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

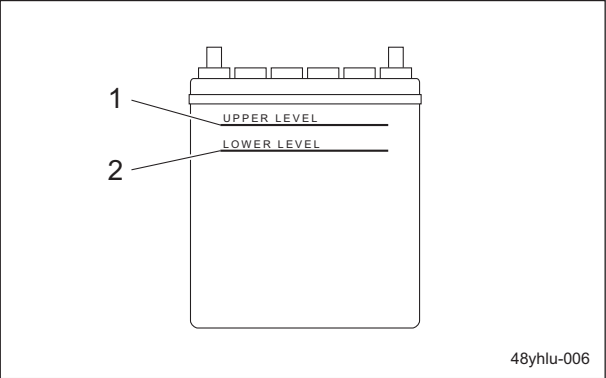
⚠ 危険

バッテリー液を補給する際は、保護服、保護メガネなどを着用してください。

⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

1. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」（最高液面線）まで精製水を補給してください。



バッテリー液の補給_001

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

タイヤサイズ	空気圧
前輪 (29 x 14.00 - 15)	150 kPa (1.5 kgf/cm ²)
後輪 (20 x 12.00 - 10)	140 kPa (1.4 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検

走行中、ブレーキペダルを強く踏み、ブレーキが効くことを確認してください。

駐車ブレーキの点検

1. ブレーキペダルを踏みながら、駐車ブレーキレバーを引いたとき、ブレーキが効くことを確認してください。
2. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーが戻ったとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

ベルト

ベルトの点検

⚠ 警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

重要

ベルトの緩みや損傷、ファンの損傷は、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン周り

エンジン周りの点検

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

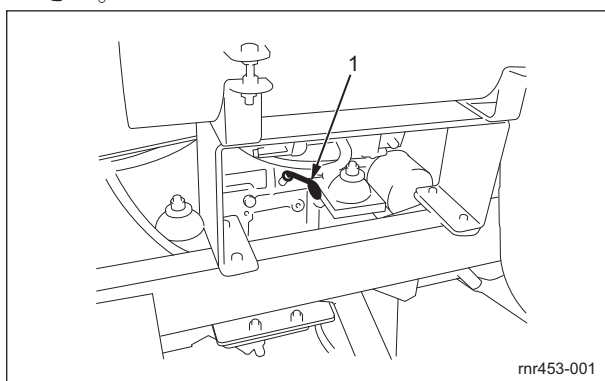
エンジンオイル

エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

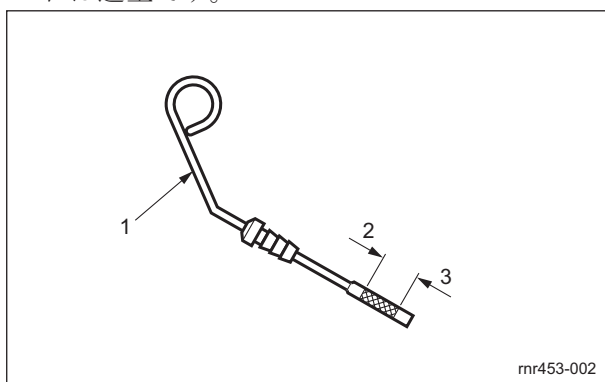
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平状態にし、オイルレベルゲージを奥まで差し込み、オイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ
---	-----------

3. エンジンオイルの油面が上限と下限の間になれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

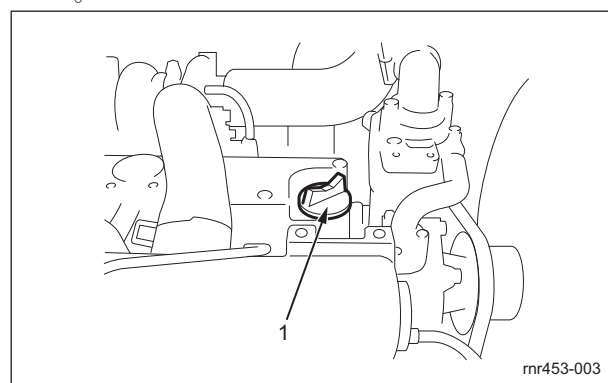
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

1. エンジンオイルが、オイルレベルゲージの下限より少ない場合、エンジンオイルの補給は、オイルフィルターより行います。オイルフィルターキャップを取り外してください。
2. 新しいエンジンオイルの油面をオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。
3. オイルフィルターキャップを取り付けてください。



エンジンオイルの補給_001

1	オイルフィルターキャップ
---	--------------

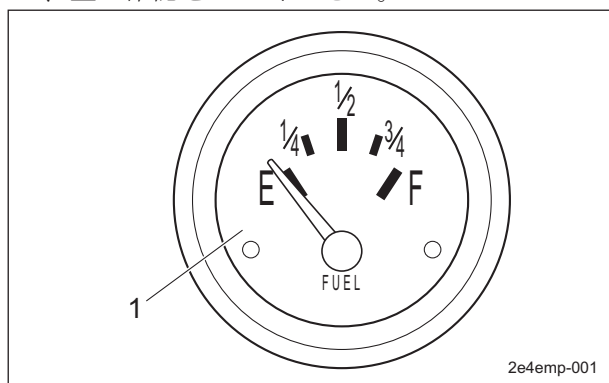
4. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。

取り扱い説明

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、操作パネルの燃料計にて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1 燃料計

燃料の給油

警告

燃料ゲージの F (FULL) の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにキャップより燃料があふれる可能性があります。

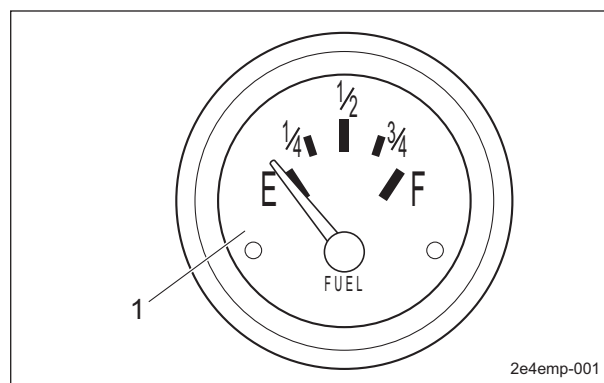
警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

警告

燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

操作パネルの燃料計が、E (EMPTY) に近づいたら早めに燃料（軽油）の給油を行ってください。
燃料タンク容量は、約 51.0 dm³ (51.0 L) です。



燃料の給油_001

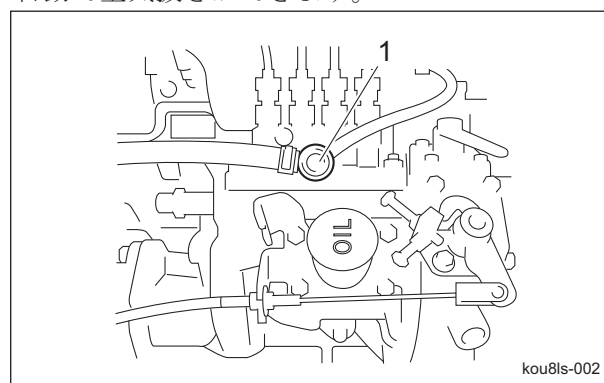
1 燃料計

燃料の空気抜き

重要

空気抜きプラグは、空気抜きするとき以外は常に閉じた状態で使用してください。
開いた状態で使用するとエンジnstoppの原因になります。

この機械は、空気抜きの操作は不要です。
自動で空気抜きができます。



燃料の空気抜き_001

1 空気抜きプラグ

燃料フィルター

燃料フィルターの点検

燃料フィルターは、燃料ストレーナーとエンジンとの間に位置しており、キャブレターへの流入燃料をきれいにします。
燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて交換してください。

1. 燃料漏れが無い確認してください。
2. 傷、汚れが無い確認してください。

油漏れ

各部油漏れの点検

**注意**

油圧システムのメンテナンスを行うときは、モアデッキを下げてください。

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

取り扱い説明

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	 tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	 tib3yb-002			 tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

取り扱い説明

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

GM2800B

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位		コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
				N-m	kgf-cm	lb-in	
前輪	モーターハウジング	K0014160402	16 調質ボルト 40P1.5	152 - 188	1549.94 - 1917.04	1345.35 - 1663.99	—
	モーター	K0013140502	14 調質ボルト 50	100	1019.7	885.1	—
	ホイール取付座	1・1/4-18UNF	油圧モーター付溝付ナット	400 - 430	4078.80 - 4384.71	3540.40 - 3805.93	—
	ディスクブレーキ	K001A080401	8 六角穴付ボルト 40	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34	—
	ホイール	K0014120652	12 調質ボルト 65P1.5	67 - 85	683.20 - 833.75	593.02 - 752.34	—
後輪	モーター	K0010120502	12 調質ボルト 50	52 - 67	530.42 - 683.20	460.25 - 593.02	—
	ホイール取付座	K0138240002	24 みぞ付ナット高 P1.5	180 - 200	1835.46 - 2039.40	1593.18 - 1770.20	—
	ホイール	K0014120652	12 調質ボルト 65P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	—
フロントアクスル		K0015200702	20 調質ボルト 70P1.5	370 - 450	3772.89 - 4588.65	3274.87 - 3982.95	—
ブレーキ Assy		K1720000190	12 調質ボルト P1.75	150 ± 15	1529.55 ± 152.96	1327.65 ± 132.77	○
エンジン		K0012120352	12 調質ボルト 35P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
		K0015120552	12 調質ボルト 55P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
		K0011100502	10 調質ボルト 50P1.25	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—
		K0013121102	12 調質ボルト 110	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	○
		K3680000030	M3.5 ねじ（付属部品）	0.78 - 1.18	7.95 - 12.03	6.90 - 10.44	—
フライホイールアダプター		K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—
		K0011100202	10 調質ボルト 20P1.25	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	○
ジョイント		K001A100401	10 六角穴付ボルト 40	80	815.76	708.08	—
		K0013100352	10 調質ボルト 35	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	○
キングピンストップ		K0013120552	12 調質ボルト 45	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02	—

取り扱い説明

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
タイロッド	K1610000020	タイロッドエンド溝付ナット	45	458.87	398.30	—
	K1611000020	タイロッドエンド溝付ナット	45	458.87	398.30	—
ピストンポンプ	K0013120502	12 調質ボルト 50	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
タンデムポンプ	付属部品	10 調 3/8-24UNC11T	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
モア旋回金	K0011100302	10 調質ボルト 30P1.25	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
ペダルストッパー	K0013101202	10 調質ボルト 120	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
回転センサー	K0015120351	12 調質ボルト 35P1.25	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
デフロックバルブ	K001A100151	10 六角穴付ボルト 15	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—
ナイフガイド	K0010120302	12 調質ボルト 30	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	—
段付ボルト	GM2800-0207Z2	段付ボルト	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02	—
アームガイド	K0013101002	10 調質ボルト 100	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—
バンパー	K0010120302	12 調質ボルト 30	67 - 134	683.20 - 1366.40	593.02 - 1186.03	—
カバー取付金	K0000080202	8 ボルト 25	9 - 14	91.77 - 142.76	61.96 - 123.91	—
バルブ V5267	K0013080902	8 調質ボルト 90	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17	—
ソレノイドバルブ V5266	K0013101202	10 調質ボルト 90	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—

使用前の調整

ハンドルの調整

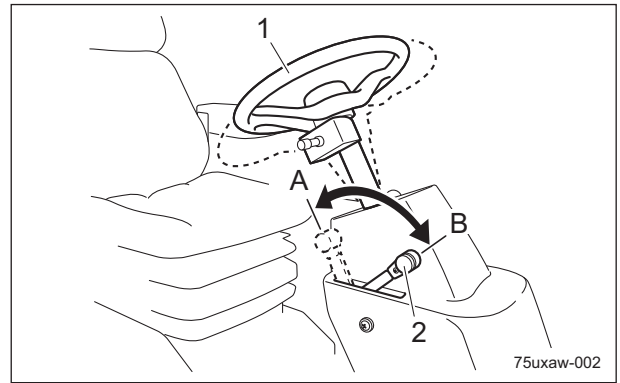
警告

走行中は危険なため、調整しないでください。

注意

ロックは確実に行ってください。
走行中に緩むと思わぬ事故を起こすおそれがあります。

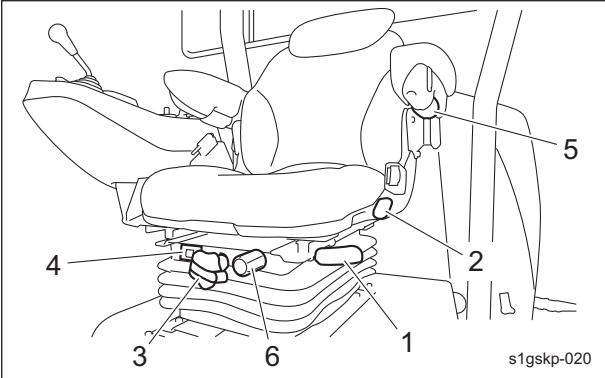
ハンドルは、上下に調整できます。
オペレーターの体に合わせて調整してください。
チルトレバーを「FREE」の位置にし、作業に適した位置でチルトレバーを「LOCK」の位置にして固定してください。
チルトレバーは、運転席右前方にあります。



ハンドルの調整_001

1	ステアリング
2	チルトレバー
A	FREE（解除）
B	LOCK（ロック）

5. シート高さ調整ノブを回すことにより、シートの高さを無段階で調整できます。[0 - 60 mm (0 - 2.36 in)]
シート高さ調整は、着座して行ってください。



シートの調整_001

1	前後調整レバー
2	角度調整レバー
3	サスペンション調整ハンドル
4	サスペンションインジケーター
5	アームレスト調整ノブ
6	シート高さ調整ノブ

シートの調整

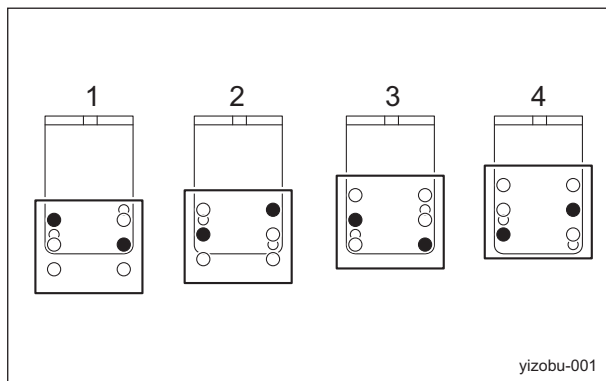
シートは、調整レバーで調整できます。
オペレーターの体に合わせて調整してください。

1. 前後調整レバーで、シートを前後に調整できます。
2. 角度調整レバーで、背もたれの角度調整ができます。
3. サスペンション調整ハンドルを回すことにより、シートのサスペンションの固さを調整できます。
サスペンションインジケーターを目安にしながら調整してください。[45 - 130 kg (99.2 - 286.6 lb)]
4. アームレスト調整ノブを回すことにより、アームレストの角度が調整できます。

刈高の調整

刈高表

刈高の調整範囲は、20.0 - 91.5 mm (0.79 - 3.60 in) です。



刈高表_001

1	調節板位置 1
2	調節板位置 2
3	調節板位置 3
4	調節板位置 4

調節板位置	1	2	3	4
刈高調節板の下側に入れる調節カラー枚数	刈高			
0 枚	20.0 mm (0.79 in)	30.0 mm (1.18 in)	45.5 mm (1.79 in)	55.5 mm (2.19 in)
1 枚	26.0 mm (1.02 in)	36.0 mm (1.42 in)	51.5 mm (2.03 in)	61.5 mm (2.42 in)
2 枚	32.0 mm (1.26 in)	42.0 mm (1.65 in)	57.5 mm (2.26 in)	67.5 mm (2.66 in)
3 枚	38.0 mm (1.50 in)	48.0 mm (1.89 in)	63.5 mm (2.50 in)	73.5 mm (2.89 in)
4 枚	44.0 mm (1.73 in)	54.0 mm (2.13 in)	69.5 mm (2.74 in)	79.5 mm (3.13 in)
5 枚	50.0 mm (1.97 in)	60.0 mm (2.36 in)	75.5 mm (2.97 in)	85.5 mm (3.67 in)
6 枚	56.0 mm (2.20 in)	66.0 mm (2.60 in)	81.5 mm (3.21 in)	91.5 mm (3.60 in)

参考：

出荷時の刈高は、48.0 mm (1.89 in) に設定してあります。

調節カラーによる調整

調節カラーは、1 つのモアデッキに 3 か所取り付けられています。

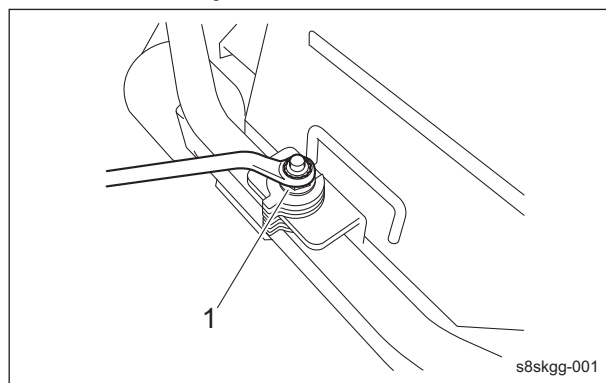
重要

一度に刈る芝の長さは 30.0 mm (1.18 in) 以内にしてください。

重要

芝丈の 1/3 以上は刈らないようにしてください。

1. 駐車ブレーキをかけ、モアデッキをすべて下ろしてください。
2. エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
3. 3 か所の調節カラーを止めているナットを緩めてください。



調節カラーによる調整_001

1	ナット
---	-----

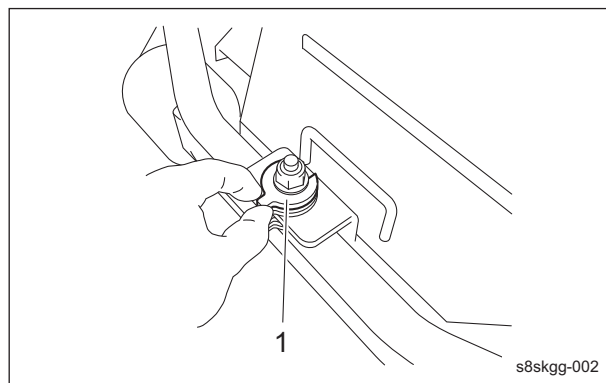
4. 刈高表を参考にして、3 か所の調節カラーの枚数を変更してください。

〔1〕 刈高を高くする場合

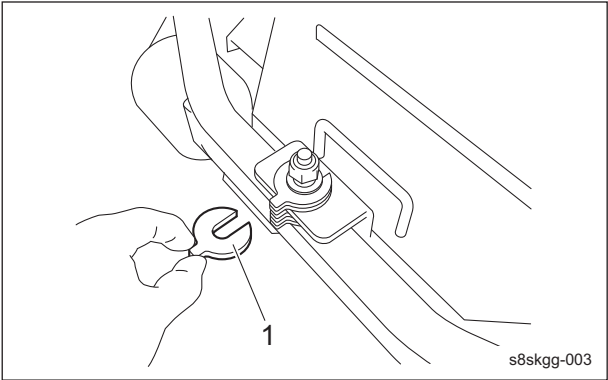
上側の調節カラーを外し、下側に入れてください。

〔2〕 刈高を低くする場合

下側の調節カラーを外し、上側に入れてください。



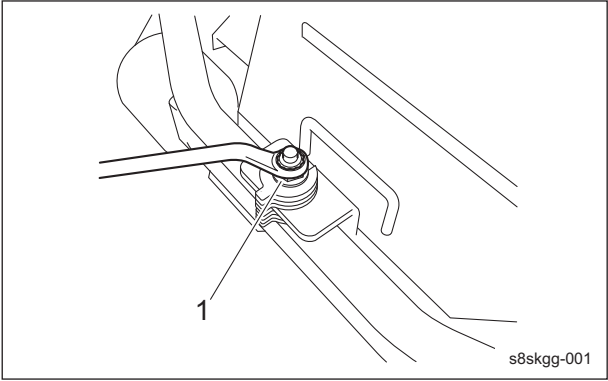
調節カラーによる調整_002



調節カラーによる調整_003

1 調節カラー

5. 3 か所の調節カラーの調整が終わったら、すべてのナットを確実に締めてください。



調節カラーによる調整_004

1 ナット

刈高調節板による調整

刈高調節板は、1 つのモアデッキに 3 か所取り付けられています。

重要

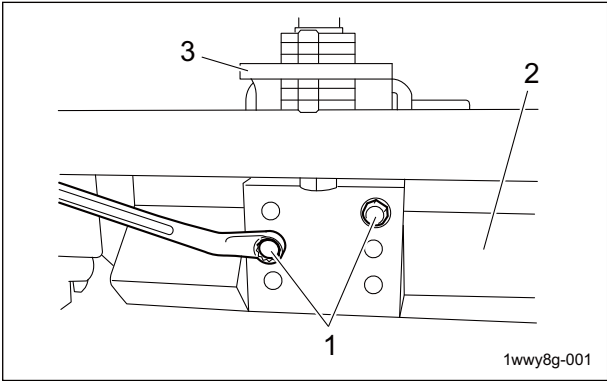
一度に刈る芝の長さは 30.0 mm (1.18 in) 以内にしてください。

重要

芝丈の 1/3 以上は刈らないようにしてください。

1. 駐車ブレーキをかけ、モアデッキをすべて下ろしてください。
2. エンジン进行停止し、キーを抜き取ってください。

3. 3 か所の刈高調節板と、モアデッキを止めている 6 本のボルトを緩めてください。



刈高調節板による調整_001

1	ボルト
2	モアデッキ
3	刈高調節板

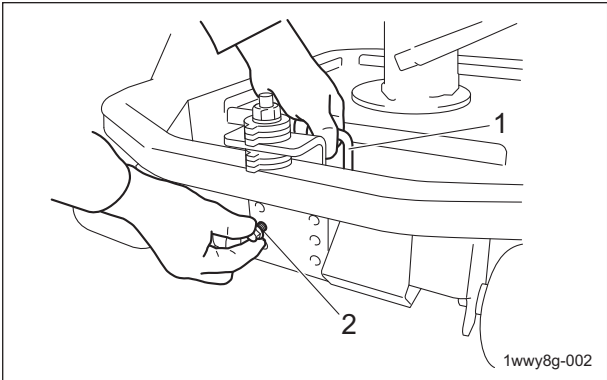
4. 刈高表を参考にして、穴位置を変更してください。

[1] 刈高を高くする場合

- a. 1 か所ずつモアデッキの取っ手を持ち上げながら 2 本のボルトを外します。
- b. モアデッキを上げ、穴位置を変更し、2 本のボルトで仮止めしてください。

[2] 刈高を低くする場合

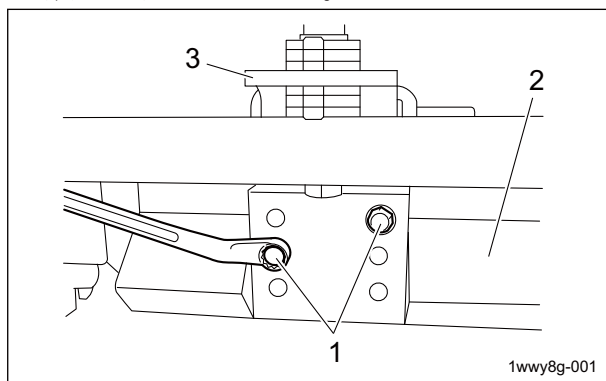
- a. 1 か所ずつモアデッキの取っ手を持ち上げながら 2 本のボルトを外します。
- b. モアデッキを下げ、穴位置を変更し、2 本のボルトで仮止めしてください。



刈高調節板による調整_002

1	取っ手
2	ボルト

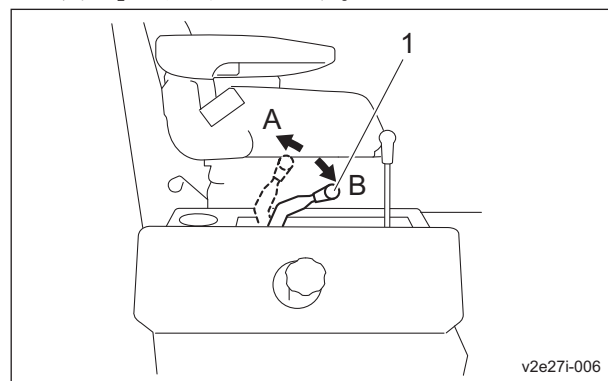
5. 3 か所の調整が終わったら、すべてのボルトを確実に締めてください。



刈高調節板による調整_003

1	ボルト
2	モアデッキ
3	刈高調節板

5. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かします。



エンジン始動手順_001

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

エンジン始動手順



注意

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

重要

スターターの操作は、最長 15 秒です。始動しないときは、30 - 60 秒バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。

1. 運転席に着座します。
2. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
3. ナイフ回転スイッチが「停止」の位置になっていることを確認してください。
4. 走行ペダルが中立になっていることを確認してください。

重要

サーモスタートランプは、設定時間後に消灯しますが、ランプの消灯とグロープラグの発熱は関連がありません。

ランプ消灯後もキーが「グロー」の位置であれば発熱しています。

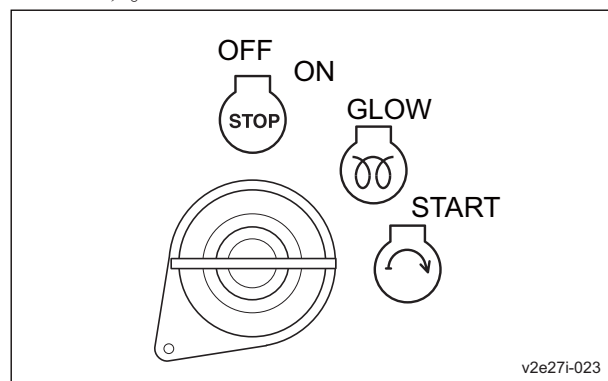
ランプの点灯時間は 5 秒です。

6. エンジンキーを「グロー」の位置にします。
7. グロープラグが発熱し、サーモスタートランプが点灯したことを確認してください。

重要

エンジンキーを「START」位置から、「ON」の位置へ急激に戻すと、機器の損傷につながります。

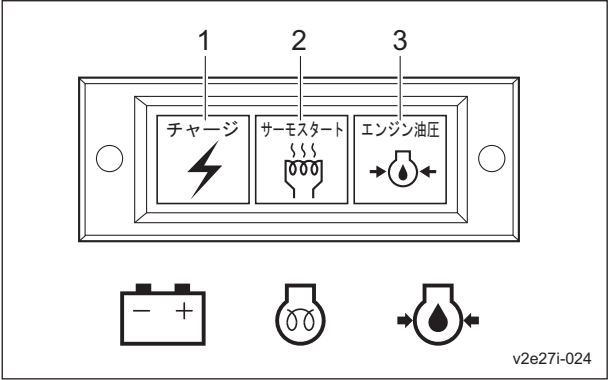
8. サーモスタートランプが消えたら、速やかにエンジンキーを「START」の位置にします。
9. スターターが回転し、エンジンが始動したらエンジンキーを「ON」の位置へゆっくりと戻します。



エンジン始動手順_002

取り扱い説明

10. チャージランプとエンジン油圧ランプが消えることを確認してください。
消えない場合は、エンジンを停止し、点検整備を行ってください。



エンジン始動手順_003

1	チャージランプ
2	サーモスタートランプ
3	オイルプレッシャーランプ

11. スロットルレバーを「低速」側にして 1 - 2 分間、暖気運転します。
12. スロットルレバーを徐々に「高速」側へ動かします。

エンジン停止手順

1. 走行ペダルを中立にします。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. ナイフ回転スイッチを「停止」の位置にします。
4. スロットルレバーを「低速」側にして 1 - 2 分間、空運転します。
5. エンジンキーを「OFF」の位置にします。
6. エンジンが停止したことを確認してください。
7. エンジンキーを抜き取ります。
8. 運転席から降ります。

安全装置について

この機械には、エンジン始動・停止に対する安全装置が装着されています。

1. エンジンを始動するときは、以下の 4 つの条件が 1 つでも満たされていないと安全装置が働き、エンジンは始動しません。
 - ・シートに着座する。
 - ・駐車ブレーキをかける。
 - ・ナイフ回転スイッチを「停止」の位置にする。
 - ・走行ペダルの位置を中立にする。
2. 駐車ブレーキをかけた状態で、エンジンをかけたまま運転席から離れるとき、以下の条件の場合は、安全装置が働き、エンジンが停止します。
 - ・走行ペダルの位置が中立でない。(走行ペダルを踏んだ場合)
 - ・ナイフ回転スイッチが「回転」位置にある。

警報装置について

重要

ブザー（断続音）が鳴った場合は、エンジンがオーバーヒートしていますので必ず作業を停止してください。
エンジンは急停止しないで、最低 5 分以上アイドリング運転などの冷機運転を行い、徐々に冷却したのちエンジンを停止してください。
ラジエーター、エアクリーナーなどに詰まっている埃を取り除いてください。

この機械には、オーバーヒートおよび油圧作動油量の警報装置が装着されています。

1. エンジン内部の水温が 115° C を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)
2. 油圧タンク内の作動油が規定量より約 2.0 dm³ (2.0 L) 減ると、ブザーが鳴ります。(連続音)

取り扱い説明

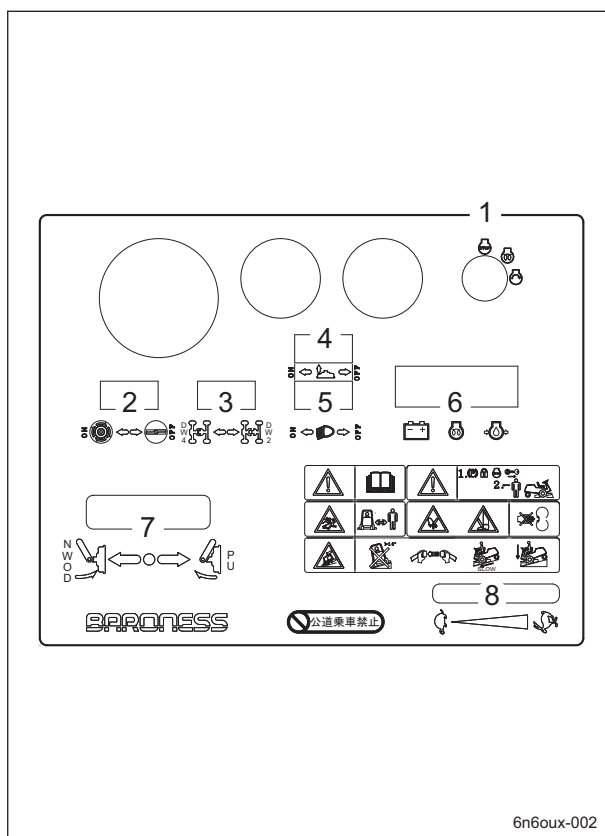
各部の操作方法

機械を離れるときの注意

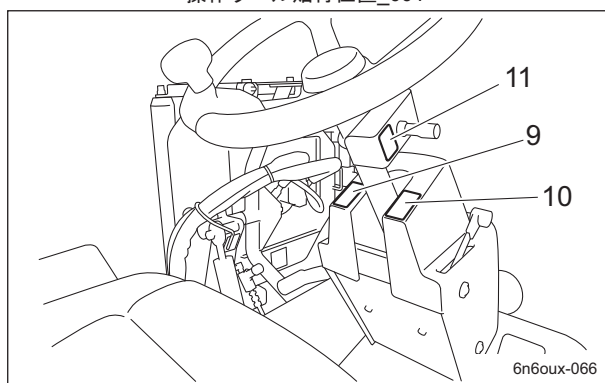


ブレーキの効きが悪いときは、車輪止めを使用し、固定してください。

操作ラベル貼付位置



操作ラベル貼付位置_001



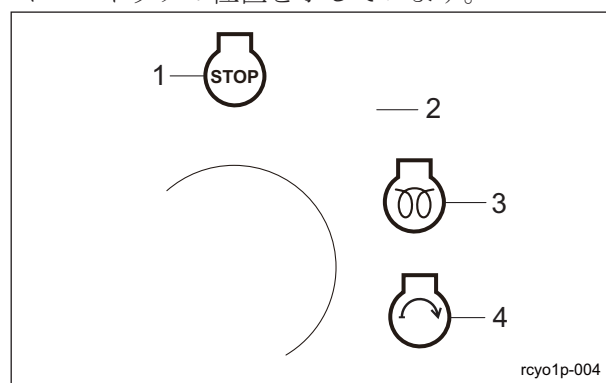
操作ラベル貼付位置_002

1	キースイッチマーク
2	ナイフ回転スイッチマーク
3	2WD - 4WD 切り替えスイッチマーク
4	トラクションアシストスイッチマーク
5	ライトスイッチマーク
6	パイロットランプマーク
7	モアデッキ昇降レバーマーク
8	エンジン回転マーク
9	駐車ブレーキマーク
10	チルトステアリングマーク
11	デフロックマーク

操作ラベルの説明

キースイッチマーク

キースイッチマーク
キースイッチの位置を示しています。

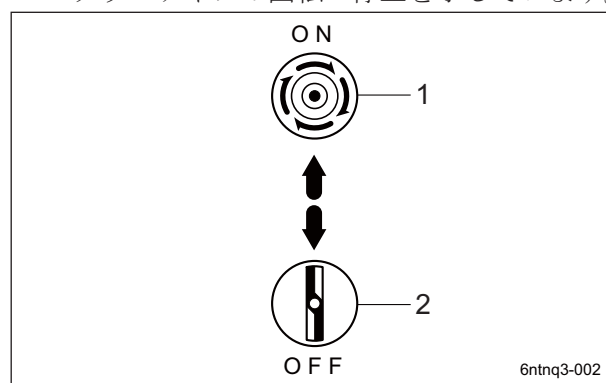


キースイッチマーク_001

1	OFF
2	ON
3	GLOW
4	START

ナイフ回転マーク

ナイフ回転マーク
ロータリーナイフの回転・停止を示しています。



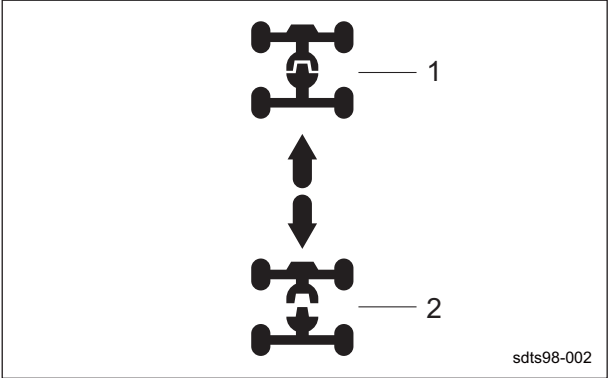
ナイフ回転マーク_001

取り扱い説明

1	回転
2	停止

2WD - 4WD 切り替えマーク

2WD - 4WD 切り替えマーク
2WD - 4WD 切り替えを示しています。

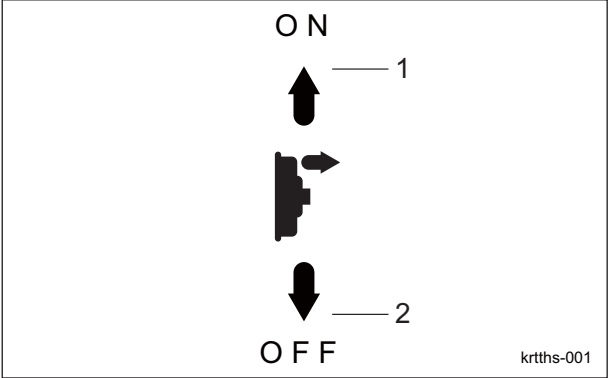


2WD - 4WD 切り替えマーク_001

1	4WD
2	2WD

トラクションアシストマーク

トラクションアシストマーク
トラクションアシストの作動・解除を示しています。

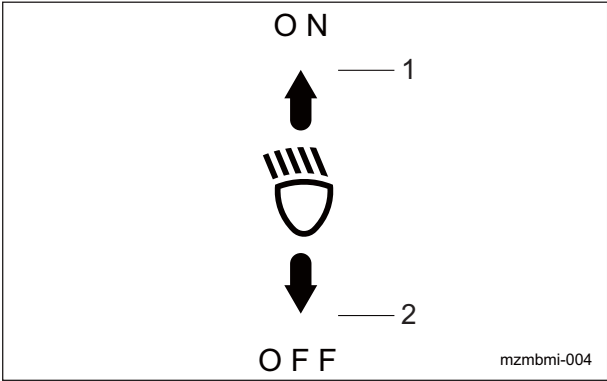


トラクションアシストマーク_001

1	作動
2	解除

ライトスイッチマーク

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。
ライトスイッチマーク
ライトの切り替えを示しています。

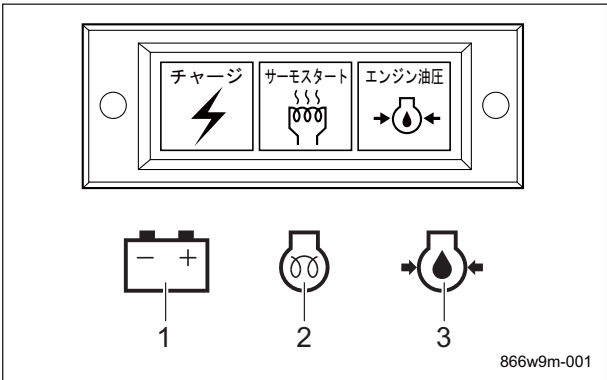


ライトスイッチマーク_001

1	点灯
2	消灯

パイロットランプマーク

パイロットランプマーク
パイロットランプの位置を示しています。



パイロットランプマーク_001

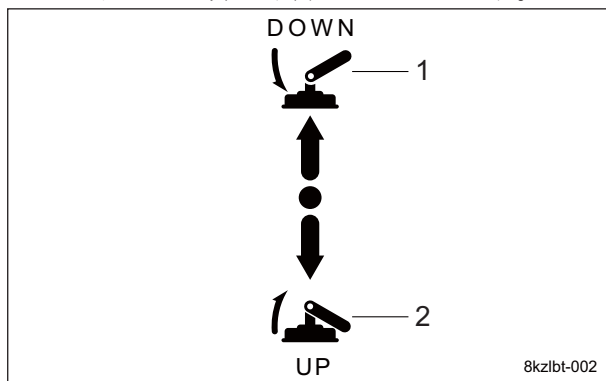
1	チャージランプ
2	サーモスタートランプ
3	オイルプレッシャーランプ

取り扱い説明

モアデッキ昇降マーク

モアデッキ昇降マーク

モアデッキの上昇・下降を示しています。



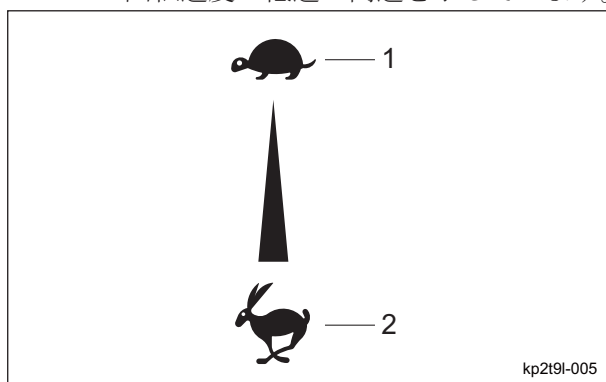
モアデッキ昇降マーク_001

1	下降
2	上昇

エンジン回転マーク

エンジン回転マーク

エンジン回転速度の低速・高速を示しています。



エンジン回転マーク_001

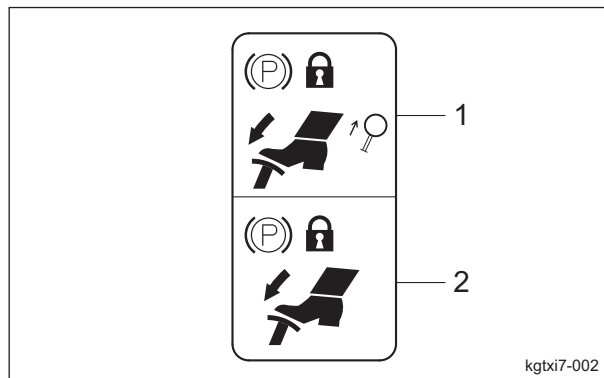
1	低速
2	高速

駐車ブレーキマーク

K4203001340

駐車ブレーキマーク

駐車ブレーキのロック・解除を示しています。



駐車ブレーキマーク_001

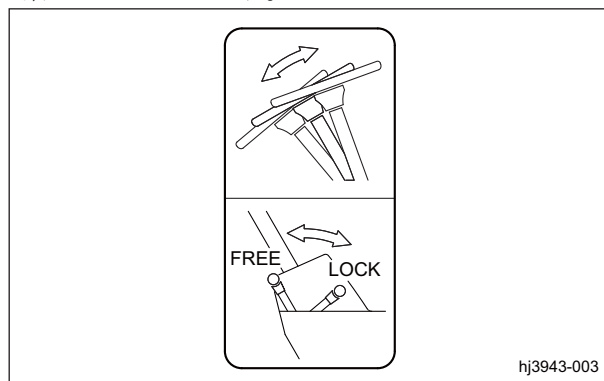
1	ロック
2	解除

チルトステアリングマーク

K4203001350

チルトステアリングマーク

ステアリングのチルトの方向と、位置の固定・解除を示しています。

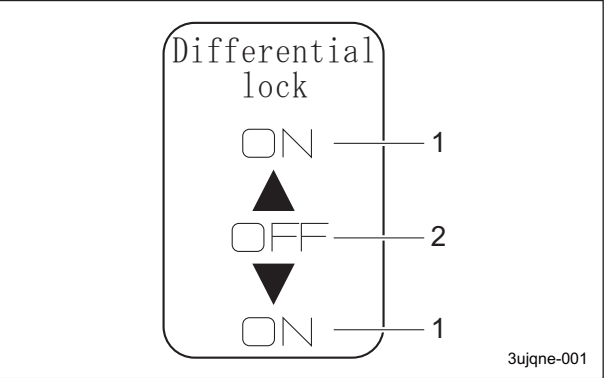


チルトステアリングマーク_001

取り扱い説明

Differentiallock マーク

K4203001420
Differentiallock マーク
デフロックの作動・解除を示しています。

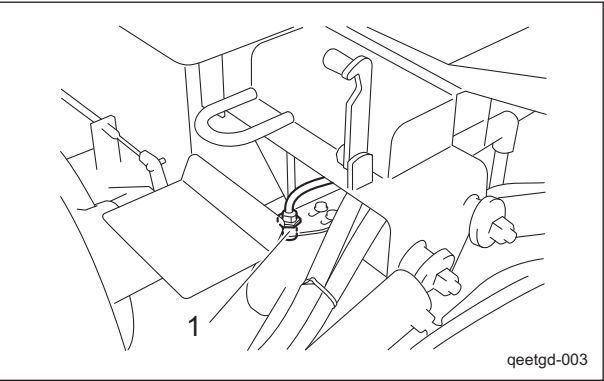


Differentiallock マーク_001

1	作動
2	解除

近接センサー

近接センサーは、#4、#5 モアアーム支点部に 2 つあります。
これらのセンサーは、#4、#5 モアデッキの上昇と下降の位置を検出します。
これらの情報は、ロータリーナイフの回転・停止の制御に関わります。



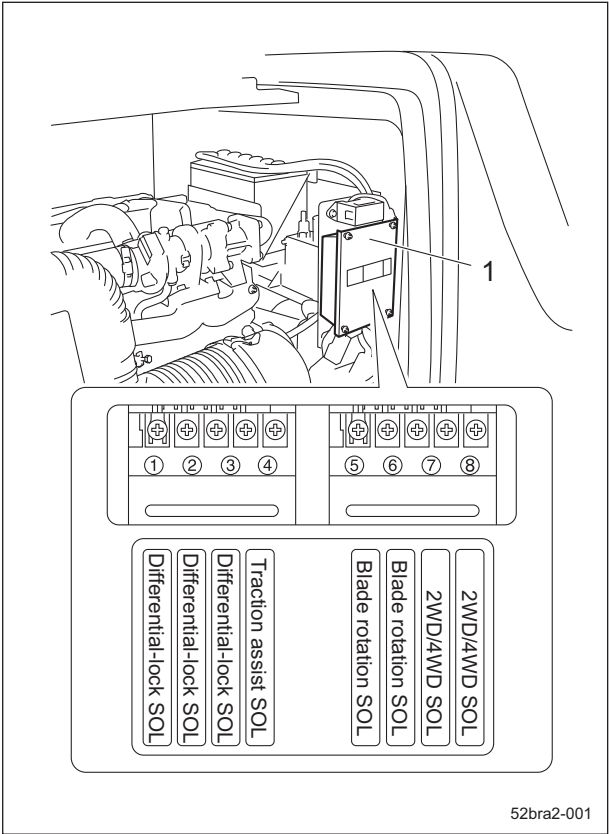
近接センサー_001

1	近接センサー
---	--------

リレー

リレーボックスは、ボンネットカバー右前部にあります。
デフロック、ロータリーナイフの回転、2WD - 4WD の切り替え、トラクションアシストの切り替えの作動を制御しています。
LED の点灯により作動状態の確認ができます。

- LED (①②③) はデフロックバルブを「ON」にしたときに点灯します。
- LED (④) はトラクションアシストスイッチが「ON」のときに点灯します。
- LED (⑤⑥) はナイフ回転スイッチが「回転」になり、モアデッキが下がっているときに点灯します。
- LED (⑦) はナイフ回転スイッチが「回転」になったときに点灯し、4 駆になります。
- LED (⑧) は 2WD - 4WD 切り替えスイッチが「4WD」になったときに点灯し、4 駆になります。



リレー_001

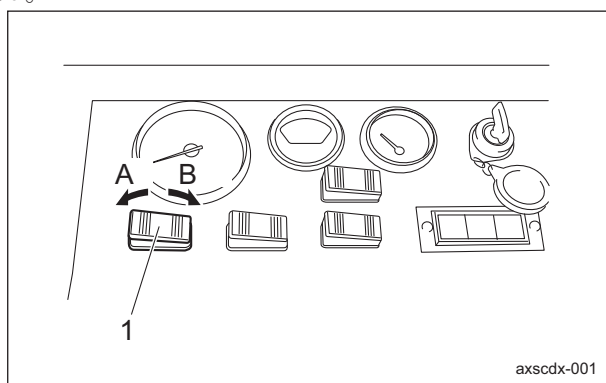
1	リレーボックス
---	---------

ナイフ回転スイッチ

⚠ 注意

ナイフ回転スイッチは、刈り込む直前に「回転」側に押し、それ以外のときは、必ず「停止」側にしてください。

ナイフ回転スイッチは、操作パネルにあり、ロータリーナイフを回転させます。
すべてのモアデッキのロータリーナイフは、ナイフ回転スイッチを「回転」側に押すと回転し、「停止」側に押すと停止します。
モアデッキが上がった状態では、スイッチを「回転」側に押してもロータリーナイフは回転しません。



ナイフ回転スイッチ_001

1	ナイフ回転スイッチ
A	回転
B	停止

参考：

ナイフ回転スイッチが「回転」側のときは、2WD - 4WD 切り替えスイッチに関係なく 4WD になります。

2WD - 4WD 切り替えスイッチ

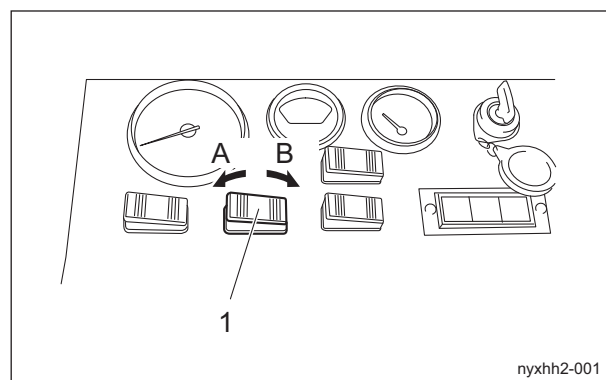
⚠ 注意

傾斜地では、必ず 4WD を使用してください。

⚠ 注意

移動時にはナイフの回転を停止させ、モアデッキを上げてください。

2WD - 4WD 切り替えスイッチは、操作パネルにあります。
スイッチを「2WD」側に押すと 2 輪駆動（前輪駆動）、「4WD」側に押すと 4 輪駆動になります。



2WD - 4WD 切り替えスイッチ_001

1	2WD - 4WD 切り替えスイッチ
A	4WD
B	2WD

参考：

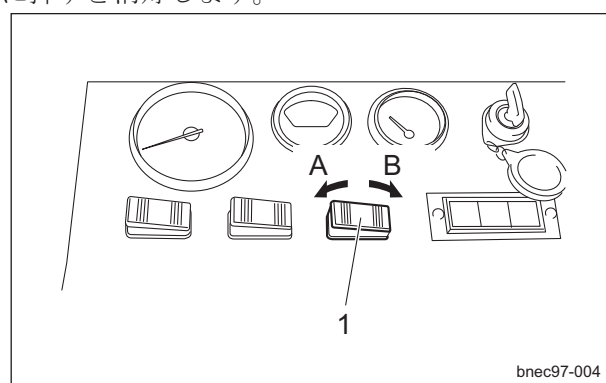
ナイフ回転スイッチが「回転」のときは、2WD - 4WD 切り替えスイッチに関係なく 4WD になります。

ライトスイッチ

⚠ 注意

ライトは補助灯です。
夜間や視界の悪いときは走行、作業を行わないでください。

ライトスイッチは、操作パネルにあります。
スイッチを「点灯」側に押すと点灯し、「消灯」側に押すと消灯します。



ライトスイッチ_001

1	ライトスイッチ
A	点灯
B	消灯

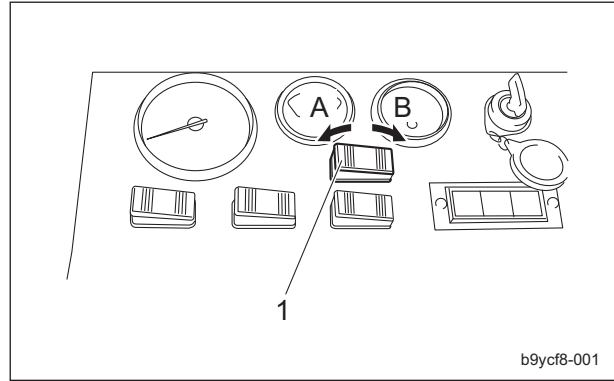
取り扱い説明

トラクションアシストスイッチ

トラクションアシストスイッチは、操作パネルにあります。
このスイッチは、この機械が作業状態（4 駆）のときに有効になり、登坂能力を高めま

- ・スイッチが「OFF」の状態でも圧力はかかっており、モアデッキを少し持ち上げています。
- ・スイッチが「ON」の状態のとき、モアデッキを持ち上げる力が強くなる設定に自動で切り替わり、登坂能力を高めま
- ・スイッチが「ON」の状態のとき、傾斜 13 度以上で作業状態のときは、モアデッキを持ち上げる力がより強くなり、登坂能力をより高めま

参考：
スイッチが「ON」の状態、アンジュレーションの多い場面で使用すると追従性が悪くなる場合があります。

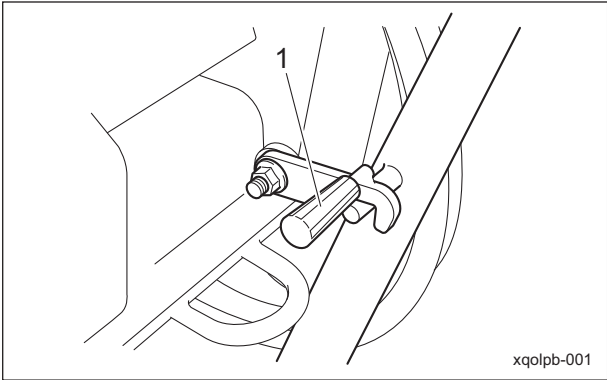


トラクションアシストスイッチ_001

1	トラクションアシストスイッチ
A	ON
B	OFF

モアロックレバー（ラッチ）

モアロックレバー（ラッチ）は、足元左右にあり、移動または #4、#5 モアデッキを上げた状態で保管する際に使用します。
この機械を保管する際は、モアロックレバー（ラッチ）をアームに掛けてください。



モアロックレバー（ラッチ）_001

1	モアロックレバー（ラッチ）
---	---------------

モアデッキ昇降レバー

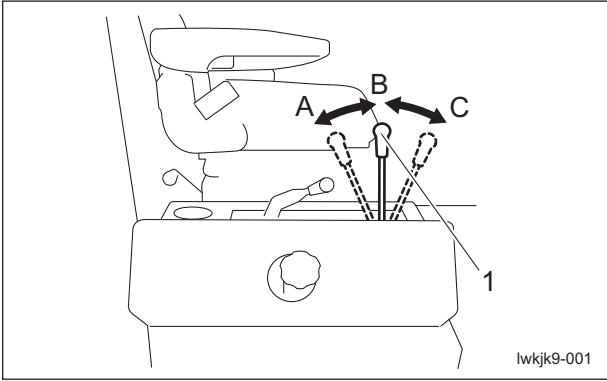
注意

モアデッキの昇降時には、周囲に人がいないことを確認してください。

重要

モアロックレバー（ラッチ）を掛けた状態でモアデッキ昇降レバーを操作しないでください。

モアデッキ昇降レバーは操作パネルにあり、モアデッキをレバーで上げ下げさせます。
「下降」側に倒すとモアデッキは下がり、「上昇」側に倒すとモアデッキは上がります。
レバーから手を放すとレバーは中立の位置に戻ります。



モアデッキ昇降レバー_001

1	モア昇降レバー
A	上昇
B	中立
C	下降

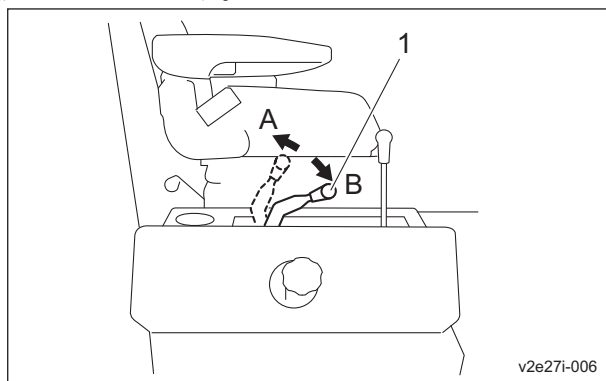
参考：
ナイフ回転スイッチが「回転」の状態でも、モアデッキを上げるとナイフの回転は停止します。

スロットルレバー

スロットルレバーは、運転席の右側にあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。

参考：

出荷時のエンジン最高回転速度は、2,600 rpm に設定してあります。



スロットルレバー_001

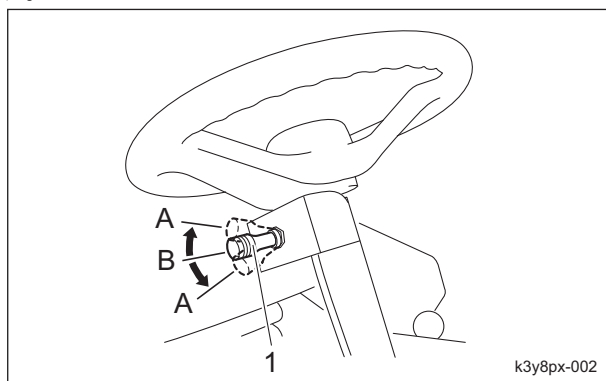
1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

デフロックスイッチ

重要

デフロックの操作は、必要なとき以外は絶対に行わないでください。

デフロックスイッチは、ハンドル右下にあり、前輪左右のデフロックを操作するスイッチです。スイッチを上側または下側に倒すと「ON」になり、前輪がデフロック状態になります。スイッチから手を離すと、スイッチは中立位置に戻って「OFF」になり、デフロックは解除されます。



デフロックスイッチ_001

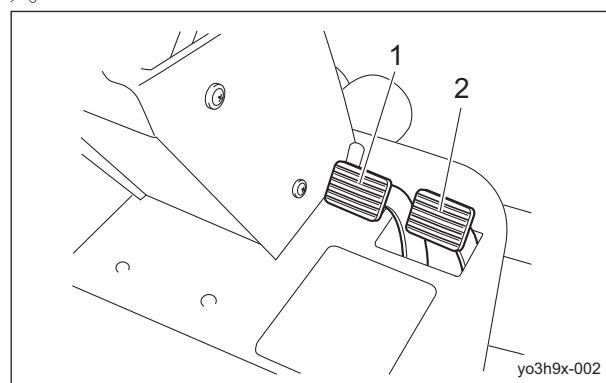
1	デフロックスイッチ
A	ON (ロック)
B	OFF (解除)

走行ペダル

⚠ 注意

スピードが速いときは、走行ペダルから足を離してもすぐには停止しません。必要に応じてブレーキを併用してください。

走行ペダルは、右足元にあり、2 ペダル方式を採用しています。前進ペダル（内側）を踏むと前に進み、後進ペダル（外側）を踏むと後ろに進みます。ペダルの踏み込み量により速さが変わります。ペダルから足を離すと、機械は自動的に停止します。



走行ペダル_001

1	前進ペダル
2	後進ペダル

取り扱い説明

ブレーキペダル

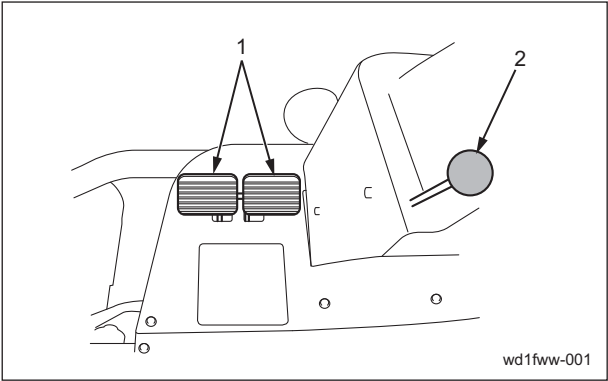
警告

作業時以外はブレーキペダルを連結してください。
連結せずに使用すると転倒事故をおこすおそれがあります。

重要

ブレーキを踏んで小さい半径で旋回する場合は、芝、地面の状態を十分に把握して行ってください。
芝を傷つけるおそれがあります。

ブレーキペダルは、左足元にあり、左右独立のブレーキを採用しています。
旋回時に旋回する側のブレーキを踏むと小さな半径で旋回することができます。
また、斜面で山側の前輪がスリップする場合には山側のブレーキを踏むと、谷側の車輪のトラクションが増加し安定して走行できます。



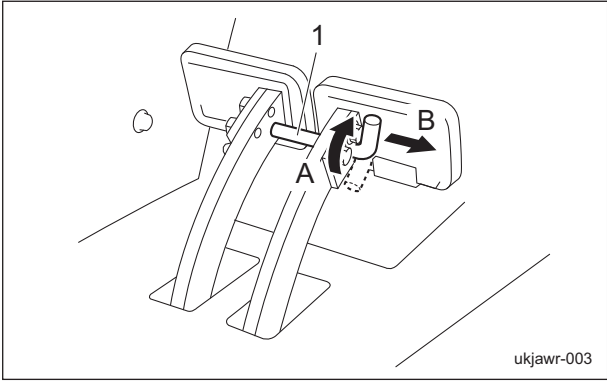
ブレーキペダル_001

1	ブレーキペダル
2	駐車ブレーキレバー

ブレーキの変更方法

ブレーキを連結タイプから、独立タイプへ変更する場合は、以下の方法で行ってください。

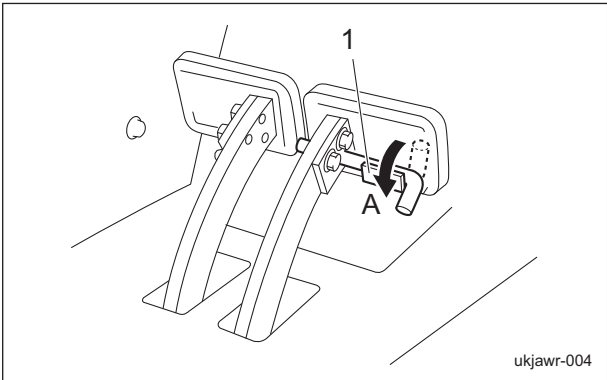
1. ペダルレバーを起こし、右ブレーキペダルから引き抜いてください。



ブレーキの変更方法_001

1	ペダルレバー
A	起こす
B	引き抜く

2. ペダルレバーを左ブレーキペダルにある受板にロックしてください。



ブレーキの変更方法_002

1	受板
A	ロック

駐車ブレーキレバー



注意

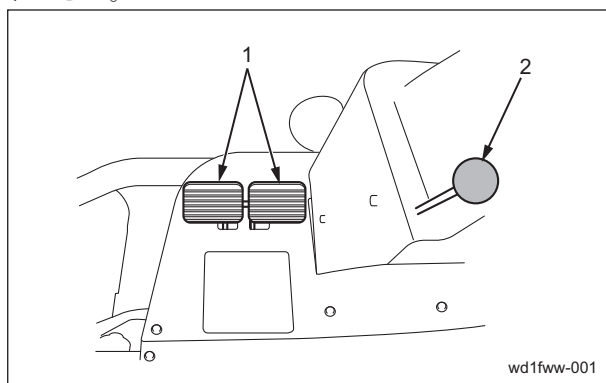
傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。



重要

走行する際は、必ず駐車ブレーキを解除してから走行してください。
ブレーキや油圧機器の故障を起こすおそれがあります。

駐車ブレーキレバーは、フロントカバーの左側にあります。
駐車時は、左右のブレーキペダルをペダルレバーで連結して両方のブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーをいっぱいまで引き上げてください。
解除する際は、ブレーキペダルを再度踏み込んでください。



駐車ブレーキレバー_001

1	ブレーキペダル
2	駐車ブレーキレバー

ボンネット



注意

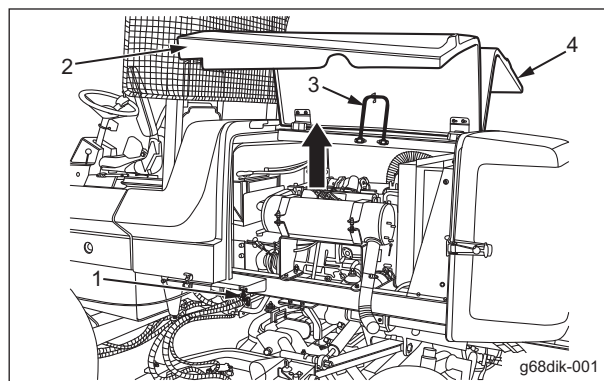
風が強い場所では、ボンネットを開けないでください。



注意

ボンネットの開閉は、手を挟まないように注意してください。

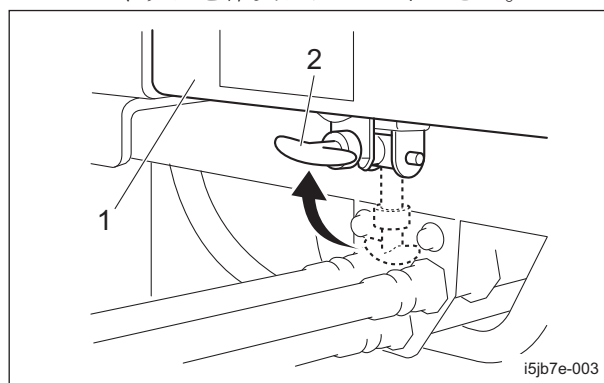
1. ゴムキャッチを外し、ボンネットを引き上げます。
2. ボンネット支えをカバー内側の受け金に引っ掛けます。
ボンネットが閉じないことを確認し、手を放してください。



ボンネット_001

1	ゴムキャッチ
2	ボンネットカバー左
3	ボンネット支え
4	ボンネットカバー右

3. ボンネットを閉じる際は、ボンネット支えを受け金から外し、ゆっくりと閉じます。
4. ゴムキャッチを確実にはめてください。



ボンネット_002

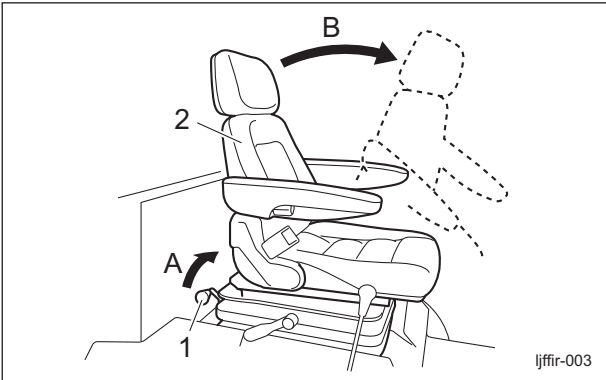
1	ボンネット
2	ゴムキャッチ

シート下カバー

⚠ 注意

カバーの開閉は、手を挟まないように注意してください。

- 1. ハンドルを一番立てた状態にします。
- 2. シートの前後調整を一番後ろにします。
- 3. シートの後ろにあるレバーを引き上げ、ロックを外します。



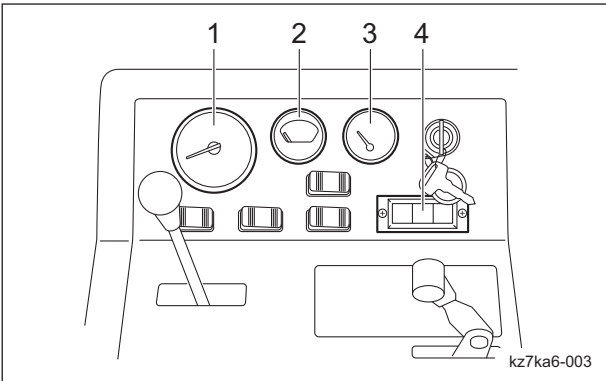
シート下カバー_001

1	レバー
2	シート
A	引き上げる
B	倒す

- 4. シートを前に倒し、カバーを開けてください。閉じる際は、ゆっくりと下ろしてください。

各部の計器

操作パネルの計器説明

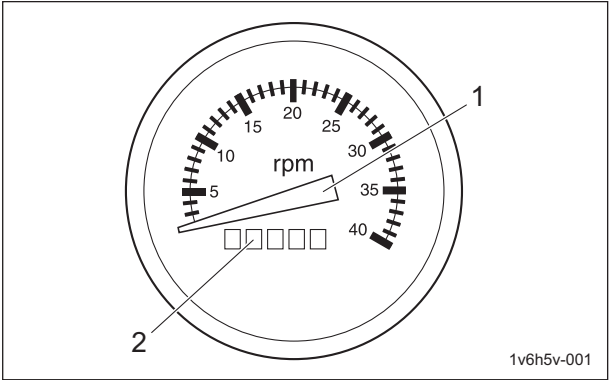


操作パネルの計器説明_001

1	タコメーター・アワーメーター
2	水温計
3	燃料計
4	パイロットランプ（チャージランプ・サーモスタートランプ・オイルプレッシャーランプ）

タコメーター・アワーメーター

タコメーター・アワーメーターは、操作パネルにあります。
タコメーターは、エンジンの回転速度を表示します。
エンジンフライホイール部の回転センサーと接続されており、回転センサーから出力された信号を回転数で表示します。
アワーメーターは、エンジンの総運転時間を表示します。
6分経過ごとに一目盛（白地に黒数字）上がり、一時間経過ごとに次の目盛（黒字に白数字）が一目盛上がります。

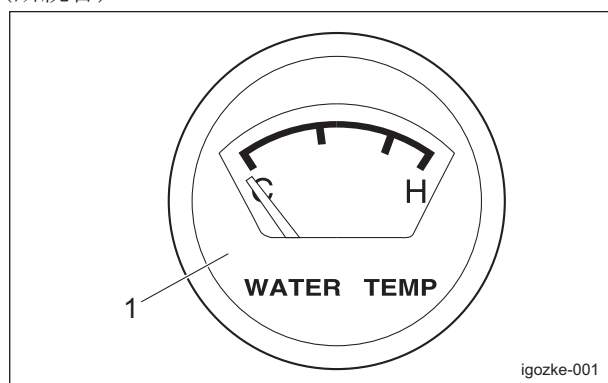


タコメーター・アワーメーター_001

1	タコメーター
2	アワーメーター

水温計

水温計は、操作パネルにあります。
エンジン内部の水温を示す計器です。
運転中に水温計が「H」付近まで上昇した場合は、オーバーヒート状態です。
エンジンを無負荷にし、アイドリング状態で5分間運転した後、エンジンを停止して点検・整備をしてください。
水温が 115° C を超えると、ブザーが鳴ります。
(断続音)

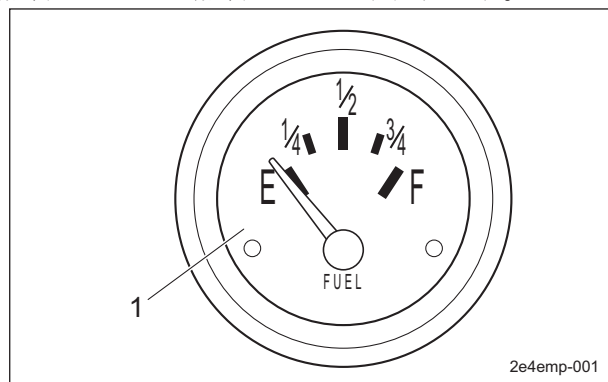


水温計_001

1	水温計
---	-----

燃料計

燃料計は、操作パネルにあります。
燃料タンク内の燃料の量を示す計器です。



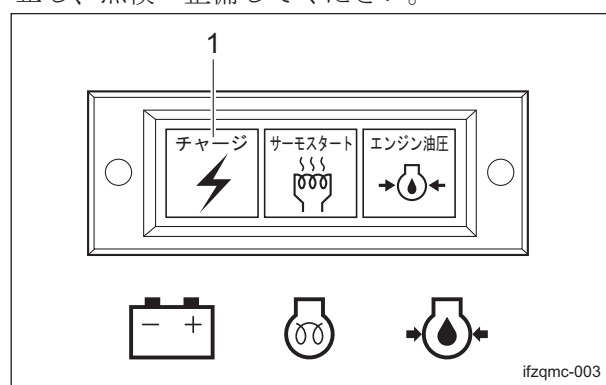
燃料計_001

1	燃料計
---	-----

パイロットランプ

チャージランプ

チャージランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内左側にあります。
エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にオルタネーターが正常に運転されると消灯します。
運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。

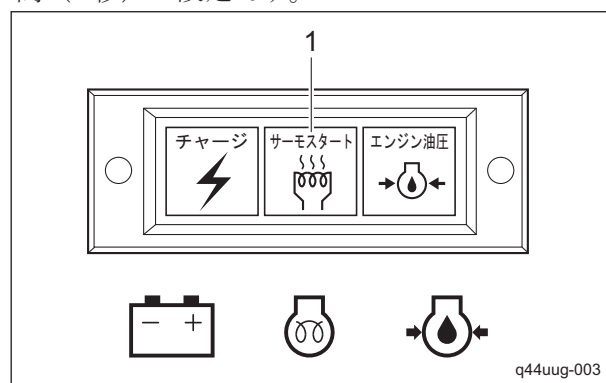


チャージランプ_001

1	チャージランプ
---	---------

サーモスタートランプ

サーモスタートランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内中央にあります。
エンジンキーの位置が「グロー」のとき、グロープラグの発熱と同時に点灯します。
グローランプタイマーにより、サーモスタートランプの点灯が制御され、設定時間経過後に消灯します。
点灯時間は、予熱に必要な目安であり、一定時間 (5 秒) の設定です。



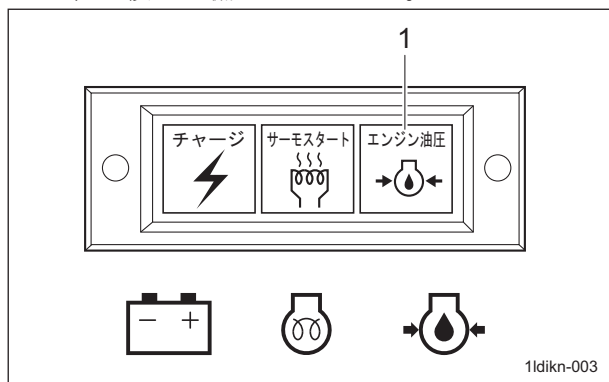
サーモスタートランプ_001

1	サーモスタートランプ
---	------------

取り扱い説明

オイルプレッシャーランプ

オイルプレッシャーランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内右側にあります。エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にエンジン油圧（オイルプレッシャー）が正常に発生すると消灯します。運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。



オイルプレッシャーランプ_001

1 オイルプレッシャーランプ

移動

移動操作

⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

⚠ 注意

移動時にはロータリーナイフの回転を停止させ、モアデッキを上げてください。

1. エンジンを始動します。
「エンジン始動手順」(Page 4-19)
2. すべてのモアデッキを上げ、#4・#5 モアデッキのモアロックレバー（ラッチ）を掛けます。
3. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキレバーを解除します。
4. 走行ペダルをゆっくりと踏み込んでください。
5. 発進し、移動できます。

けん引方法

エンジントラブルなどで自走できなくなった場合は、けん引による移動ができます。

⚠ 注意

けん引する前にブレーキが効くことを確認してください。

⚠ 注意

エンジンは、必ずアンロードバルブを閉じてから始動してください。

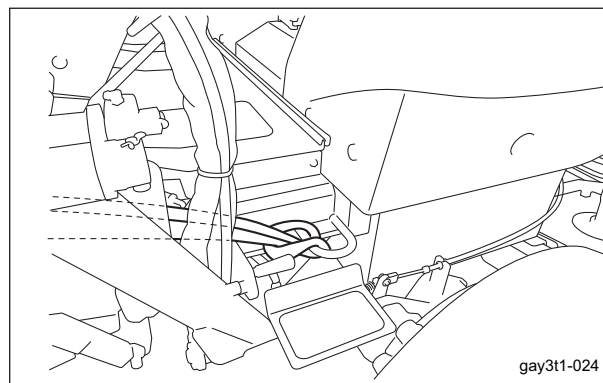
重要

けん引時以外は、アンロードバルブに触れないでください。

重要

けん引時の最大速度は、3.0 km/h 以下で移動してください。
また、3 分以上けん引しないでください。
けん引速度が速すぎたり、過度に動かすとポンプやモーターが損傷します。

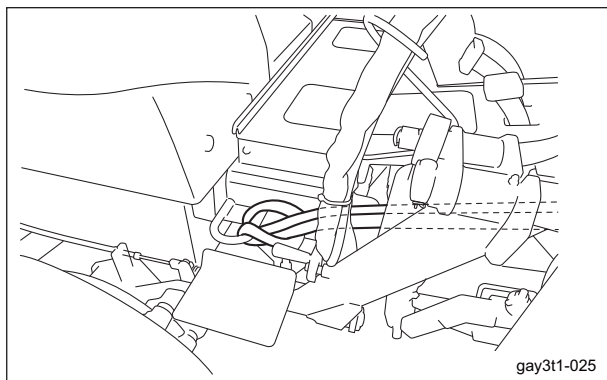
1. エンジンを停止します。
「エンジン停止手順」(Page 4-20)
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. 輪止めをします。
4. ロープを掛けてください。
前左側



けん引方法_001

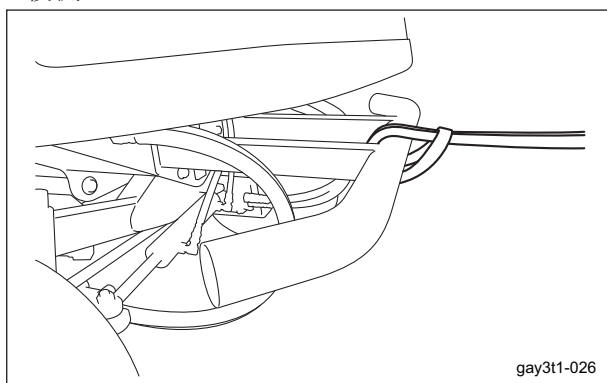
取り扱い説明

前右側



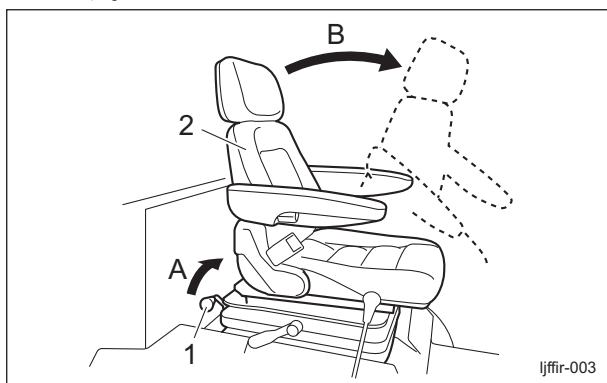
けん引方法_002

後側



けん引方法_003

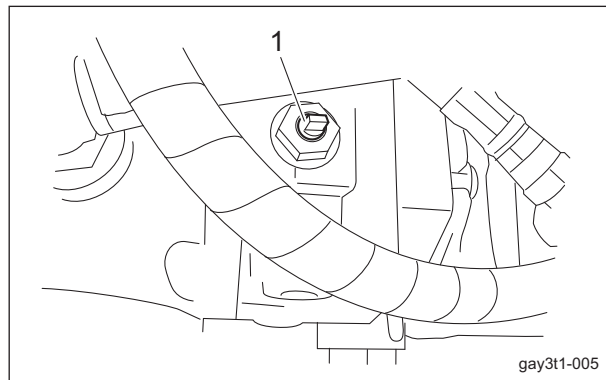
5. 2WD - 4WD 切り替えスイッチを「2WD」側にします。
6. ハンドルを一番立てた状態にし、シートの前後調整を一番後ろにします。
7. シートの後ろにあるレバーを上引き上げ、ロックを外し、シートを前に倒し、カバーを開けます。



けん引方法_004

1	レバー
2	シート
A	引き上げる
B	倒す

8. 油圧ポンプ横にあるアンロードバルブを 90 度回転させ（縦方向にする）、開きます。



けん引方法_005

1	アンロードバルブ
---	----------

9. シートを戻し、カバーを閉めます。
10. 輪止めを外します。
11. ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除します。

警告

けん引時は、常にブレーキペダルの上に足を置いて、いつでもブレーキペダルを踏んで止まれるようにしてください。

12. ゆっくりとけん引します。

取り扱い説明

刈り込み

刈り込み操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。
危険な上、油圧機器を破損したり、油漏れの原因
になることがあります。

⚠ 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行って
ください。
凸凹面の刈り込み作業は、エンジン回転は一定の
まま、刈り込み速さを遅くして行ってください。

⚠ 注意

モアデッキが完全に上がる前にモアデッキ昇降
レバーの操作をやめると、ナイフ回転が停止しな
い場合がありますので、注意してください。
ナイフ回転は、近接センサーが感知したモアデッ
キの位置に基づいて「入」「切」されます。

⚠ 注意

人を機械から遠ざけてください。

1. エンジンを始動します。
「エンジン始動手順」(Page 4-19)
2. すべてのモアデッキを上げます。
3. ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを
解除します。
4. スロットルレバーを「高速」側にし、エンジン
回転を MAX にします。
5. 刈り込み操作直前に#4・#5 モアデッキのモア
ロックレバーを解除します。
6. モアデッキ昇降レバーを「下降」側に倒し、モ
アデッキを下げます。
7. ナイフ回転スイッチを「回転」側にし、すべて
のモアデッキのナイフを回転させます。
8. 走行ペダルを踏み、作業を始めます。
参考：
作業中はモアデッキの昇降に連動し、ナイフも回
転・停止します。

運搬

運搬方法

この機械をトラックやトレーラーに積載して運搬
する場合は、進行方向に対して機械を前進で積み
込み、降ろす場合は後進で行ってください。

機械にルーフが取り付けられている場合は、ルーフを
取り外してください。

ルーフが風圧で破損するおそれがあります。

長期保管

長期保管について

- ・ 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてくだ
さい。
- ・ 各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をして
ください。
- ・ バッテリーのマイナス配線を取り外してくだ
さい。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-2
調整値	Page 5-3
ジャッキアップ	Page 5-4
ジャッキアップについて	Page 5-4
ジャッキアップポイント	Page 5-4
グリースアップ	Page 5-5
グリースアップについて	Page 5-5
グリースアップ位置	Page 5-6
メンテナンスの方法	Page 5-9
モアデッキの清掃	Page 5-9
ロータリーナイフの交換	Page 5-9
ロータリーナイフの研磨	Page 5-13
ロータリーナイフのバランス取り	Page 5-14
タイヤの脱着	Page 5-15
ベルトの張り調整	Page 5-15
ブレーキの調整	Page 5-16
ピストンポンプの中立位置の調整	Page 5-18
冷却水の交換	Page 5-19
油圧作動油の交換	Page 5-20
油圧オイルフィルターの交換	Page 5-21
エアクリーナーの交換	Page 5-22
エンジンオイルの交換	Page 5-23
エンジンオイルフィルターの交換	Page 5-24
燃料フィルターの交換	Page 5-24
ヒューズの交換	Page 5-25

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンススケジュール

GM2800B
メンテナンススケジュールは、以下の通りです。
○・・・点検、調整、補給、清掃
●・・・交換(初回)
△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	8hごと	10hごと	50hごと	100hごと	200hごと	250hごと	400hごと	500hごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	備考
ハシハH	各部の締め付け	○													
	燃料	○													
	燃料フィルターカートリッジ										△				
	エンジンオイル	○				●	△								50h（初回）
	エンジンオイルフィルター	○				●	△								50h（初回）
	ラジエーター	○													
	オイルクーラー	○													
	冷却水	○				△									
	ファンベルト	○										△			
	バッテリー	○											△		
	バッテリー液	○													
	外観清掃		○												
長	各部の締め付け	○													
	インターロックシステム	○													
	電気配線											○			
	ナイフ	○													「ロータリーナイフの点検」参照

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	8hごと	10hごと	50hごと	100hごと	200hごと	250hごと	400hごと	500hごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	標準
基本	作業高さ（刈高）	○													
	グリースアップ・注油					○									「グリースアップ位置」参照
	タイヤ	○													「タイヤの点検」参照
	ブレーキ	○													「ブレーキの点検」参照
	ブレーキワイヤー	○						△							「ワイヤーの点検」参照
	スロットルワイヤー	○						△							「ワイヤーの点検」参照
	油漏れ	○													
	油圧作動油	○					●				△				
	油圧オイルフィルター						●				△				
	油圧ホース（可動部）	○											△		
	油圧ホース（固定部）	○												△	
	エアクリーナー	○													
	アウターエレメント							△				△			いずれか早い方
	インナーエレメント											△			
	電磁ポンプフィルター	○						△							
	燃料ストレーナー						○					△			
	燃料パイプ	○													
	外観清掃		○												

上記以外のメンテナンススケジュールについては、エンジンの取扱説明書を参照ください。

消耗品については、保証値ではありません。

ステアリングシリンダー用ホースは、2年ごとに交換してください。

エアクリーナーのエレメントは、埃の多い状態では、より頻繁に清掃する必要があります。

調整値

ファンベルト	7.0 - 9.0 mm (0.28 - 0.35 in)	ベルトたわみ量
ブレーキ	0.2 mm (0.0079 in)	ブレーキディスクとライニングパッドのすき間
	1.0 mm (0.039 in)	インナーワイヤーの接合部の遊び

メンテナンス

ジャッキアップ

ジャッキアップについて

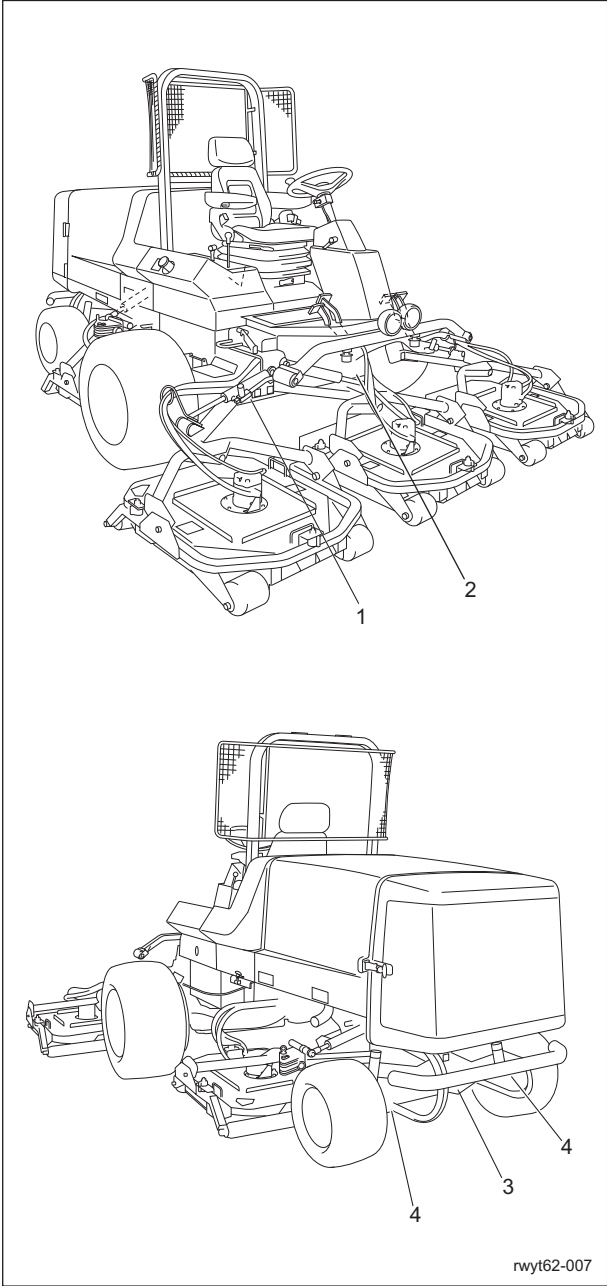


警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず
輪止めなどをして、機械が動かないようにしてく
ださい。
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に确实
に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作
業の妨げになる障害物を取り除いてください。
必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイス
ト、およびジャッキを使用してください。
持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切
なブロックを使用し、确实に支えてください。
ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確
実に支えられていない場合は、機械が動いたり、
落ちたりするおそれがあります。
人身事故の原因となります。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキ
アップポイントに記載してある位置で行ってくだ
さい。
指示された位置以外では、ジャッキアップしな
いでください。
フレームや部品が破損するおそれがあります。

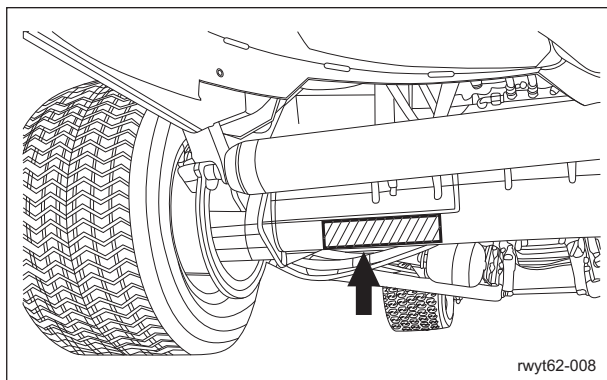
ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

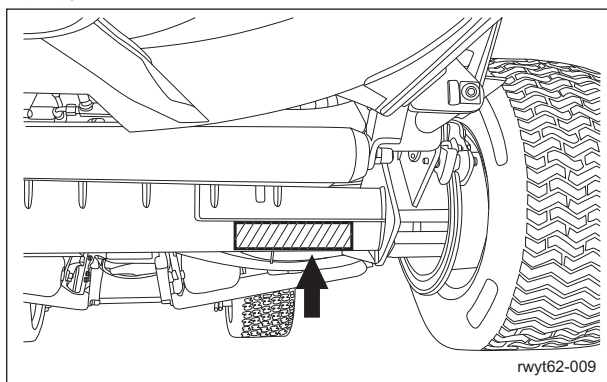
	ジャッキアップポイント
1	前部右側フレーム
2	前部左側フレーム
3	ピボット中央部
4	後輪モーター下部

1. 前部右側フレーム



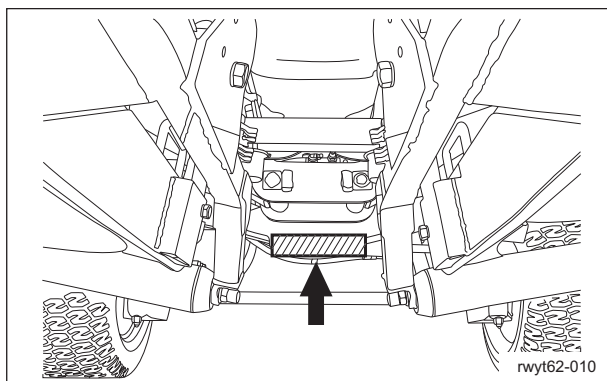
ジャッキアップポイント_002

2. 前部左側フレーム

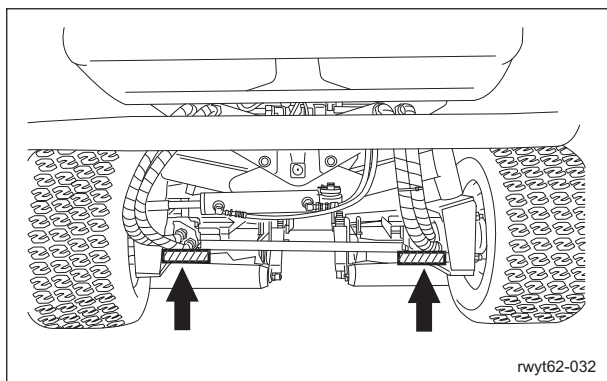


ジャッキアップポイント_003

3. ピボット中央部



ジャッキアップポイント_004

4. 後輪モーター下部
2 か所あります。

ジャッキアップポイント_005

グリースアップ

グリースアップについて

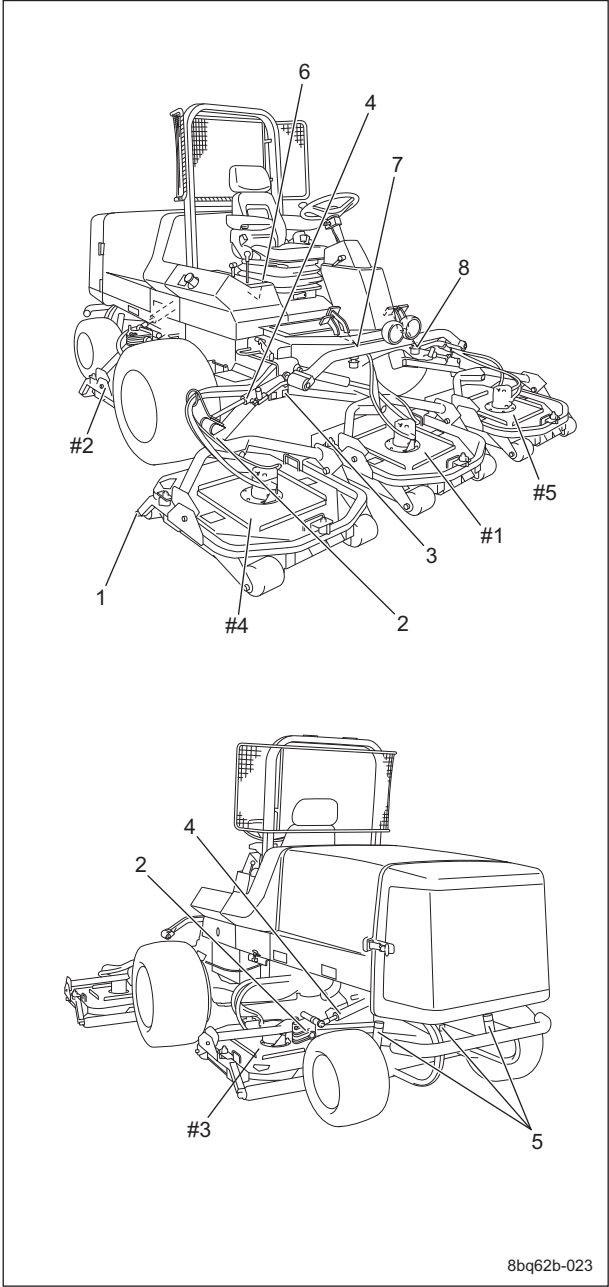
可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

メンテナンス

グリースアップ位置

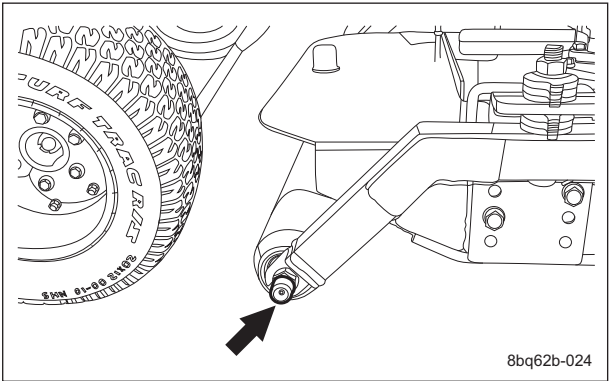
次の場所にグリースニップルが取り付けられています。
50 時間ごとにグリースアップしてください。



グリースアップ位置_001

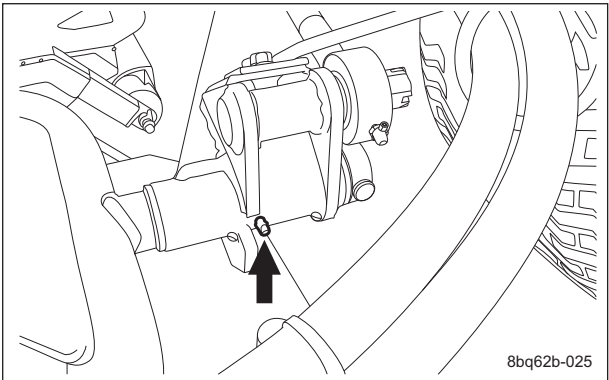
	部位	注油か所数
1	後ローラー部	10
2	モアーム支点部	5
3	リフトアーム支点部	5
4	リフトアームシリンダー支点部	12
5	ピボット部	3
6	中立出し部	2
7	走行ペダル軸支点部	2
8	フットブレーキ部	3

1. 後ローラー部
各モアデッキに左右 1 か所ずつあります。



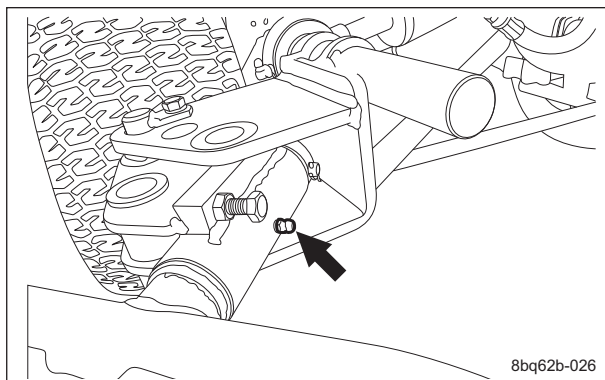
グリースアップ位置_002

2. モアーム支点部
各モアデッキを連結しているアーム部に 1 か所ずつあります。
#1、4、5 モアデッキ



グリースアップ位置_003

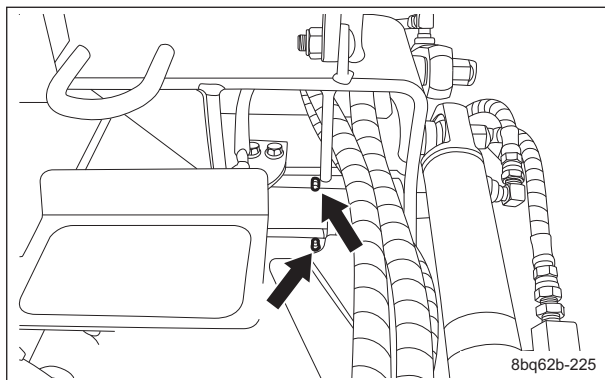
#2、3 モアデッキ



グリースアップ位置_004

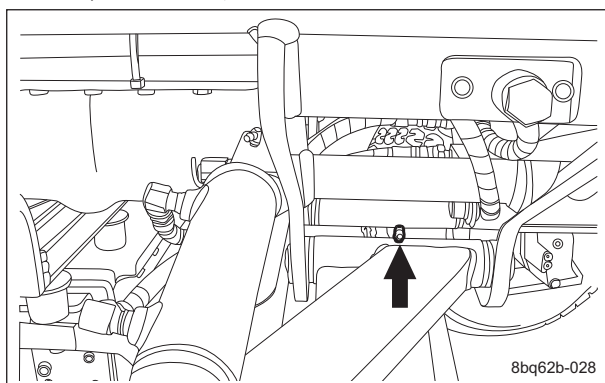
3. リフトアーム支点部
各モアデッキを連結しているアーム部に1か所ずつあります。
リフトアーム支点部をグリースアップするときは、モアデッキを下ろした状態で行ってください。

#1、4 モアデッキ



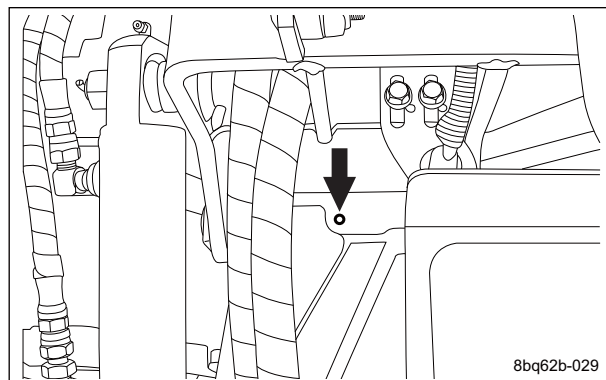
グリースアップ位置_005

#2、3 モアデッキ



グリースアップ位置_006

#5 モアデッキ

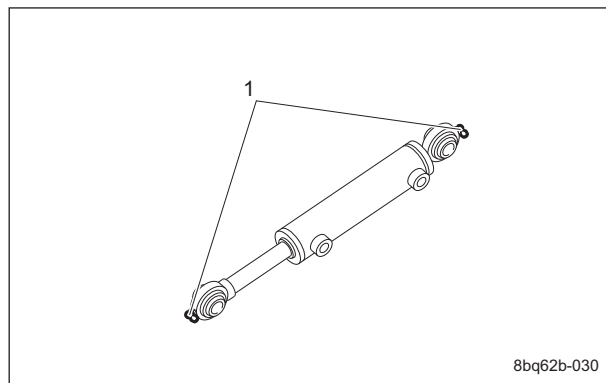


グリースアップ位置_007

4. リフトアームシリンダー支点部
各モアデッキを連結しているアーム部の各シリンダーにあります。

#1、4、5 モアデッキ

各シリンダーに2か所ずつあります。

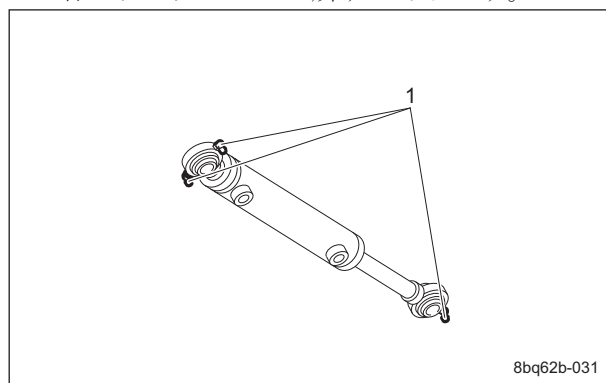


グリースアップ位置_008

1	グリースニップル
---	----------

#2、3 モアデッキ

各シリンダーに3か所ずつあります。



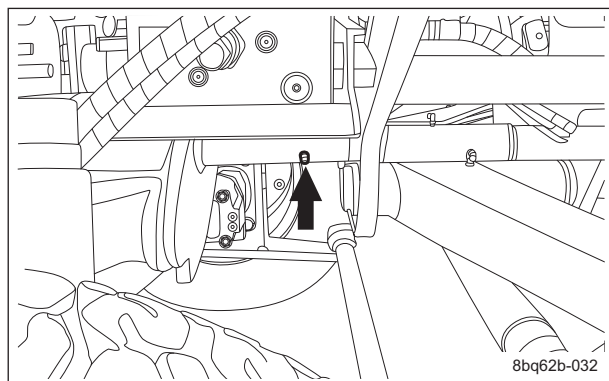
グリースアップ位置_009

1	グリースニップル
---	----------

メンテナンス

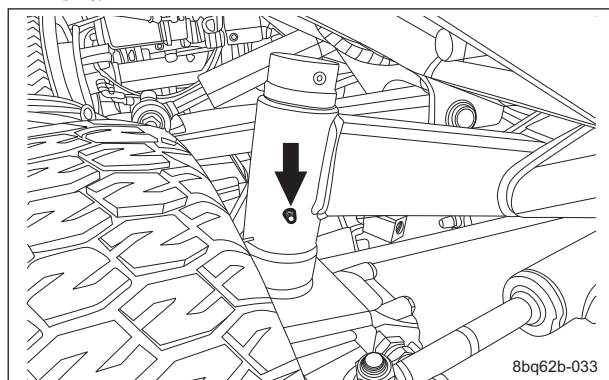
5. ピボット部

後輪中央



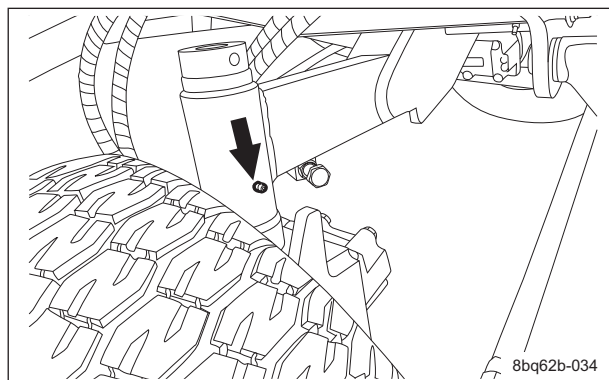
グリースアップ位置_010

後輪左側



グリースアップ位置_011

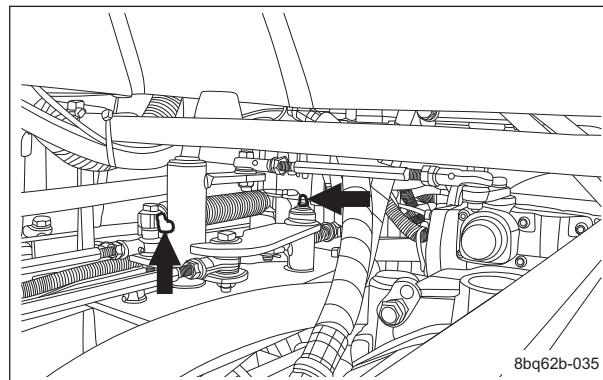
後輪右側



グリースアップ位置_012

6. 中立出し部

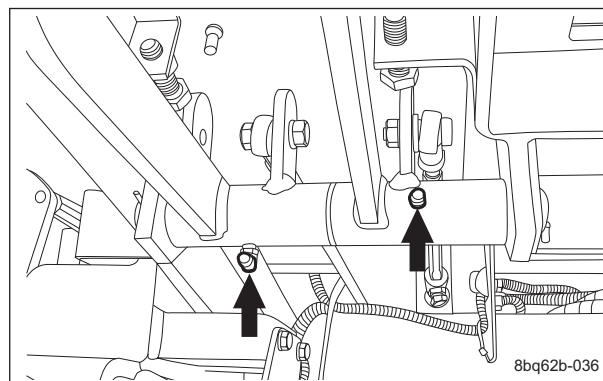
2 か所あります。



グリースアップ位置_013

7. 走行ペダル軸支点部

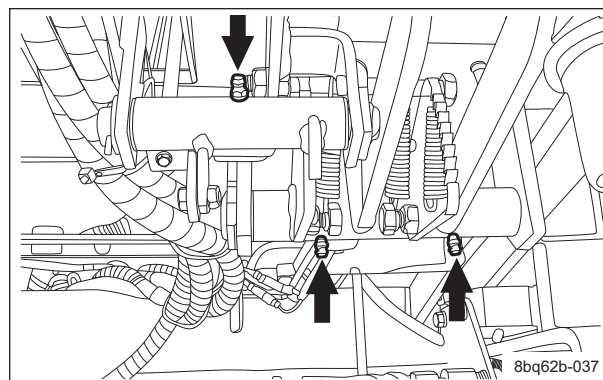
2 か所あります。



グリースアップ位置_014

8. フットブレーキ部

3 か所あります。



グリースアップ位置_015

メンテナンスの方法

モアデッキの清掃

作業後は、モアデッキの清掃を必ず行ってください。

1. エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
2. モアデッキの裏表を水または圧縮空気ですすいで清掃してください。
3. ロータリーナイフに巻き付いた芝草は取り除いてください。

ロータリーナイフの交換

注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

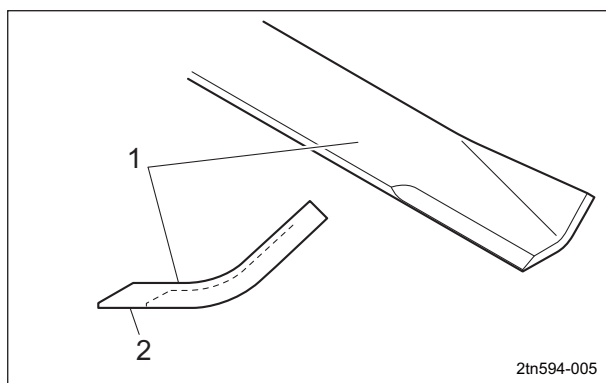
ロータリーナイフは、磨耗が進んだり、破損したりした場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。
ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

重要

ロータリーナイフには向きがあります。
取り付ける場合は、向きを間違えないように注意してください。



ロータリーナイフの交換_001

2tn594-005

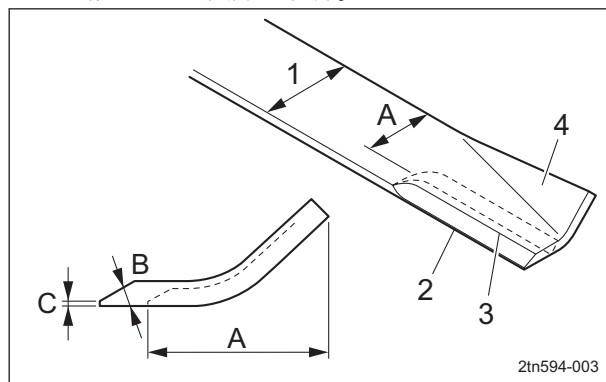
1	ロータリーナイフ上側
2	ロータリーナイフ下側

重要

ロータリーナイフは、取り付ける前にバランスがとれていることを確認してください。

ロータリーナイフは、刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。
ロータリーナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. ロータリーナイフの最も幅の狭い場所が、新品の全幅の 2/3 未満の場合。

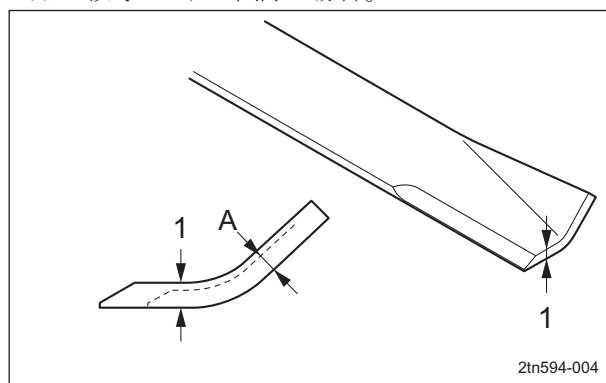


2tn594-003

ロータリーナイフの交換_002

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 未満
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in)

2. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 未満の場合。



2tn594-004

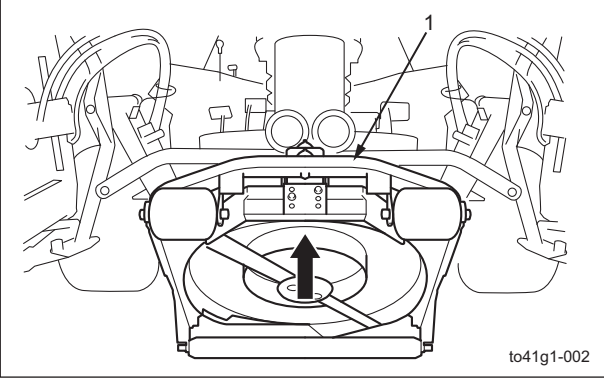
ロータリーナイフの交換_003

1	板厚
A	1/3 未満

メンテナンス

#1 モアデッキ

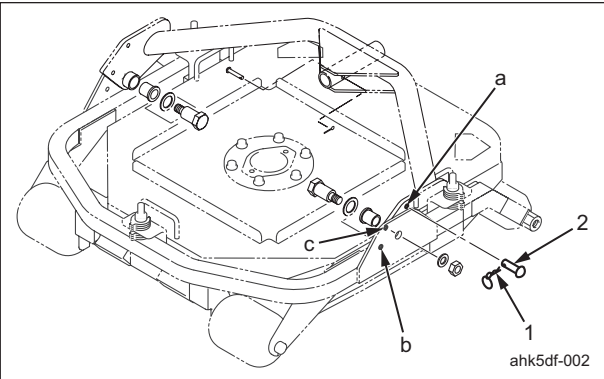
1. エンジンを始動し、モアデッキを上げてください。
2. エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
3. モアデッキを手前に持ち上げてください。



#1 モアデッキ_001

1	モアデッキ
---	-------

4. a 部に差し込んであるスナップピン、焼き入れ丸頭ピンを取り外し、b 部に差し込んでください。

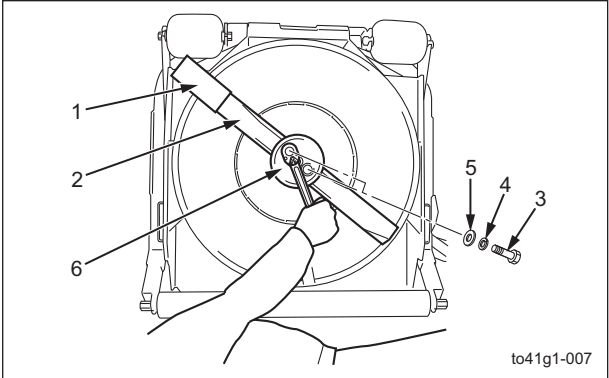


#1 モアデッキ_002

1	スナップピン
2	焼き入れ丸頭ピン

5. 以下の要領で、ロータリーナイフを取り外してください。
 - [1] 付属工具にある角パイプを使用し、ロータリーナイフが回転しないように固定してください。
 - [2] ロータリーナイフを取り付けている 2 本のボルト、S ワッシャー、ワッシャーを取り外してください。
 - [3] ナイフガイドを取り外してください。

[4] ロータリーナイフを取り外してください。



#1 モアデッキ_003

1	角パイプ
2	ロータリーナイフ
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	ナイフガイド

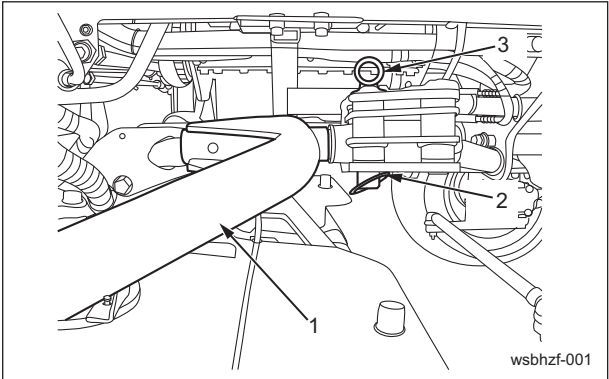
重要

ナイフ取り付けボルトの締め付けトルクは、67 - 85 N-m (683.20 - 866.75 kgf-cm) です。

6. ロータリーナイフを取り付けてください。取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

#2・#3 モアデッキ

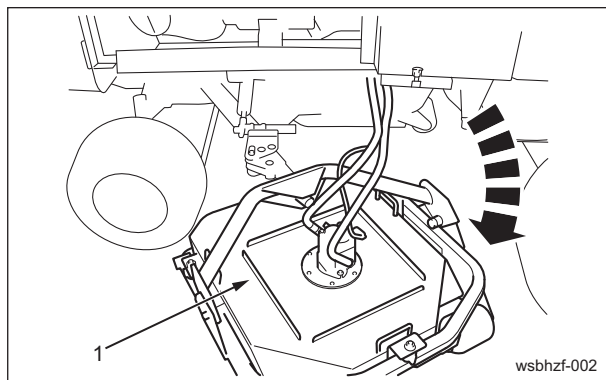
1. モアアームに取り付けてあるクリップピンを抜き、握り付ピンを取り外してください。



#2・#3 モアデッキ_001

1	モアアーム
2	クリップピン
3	握り付ピン

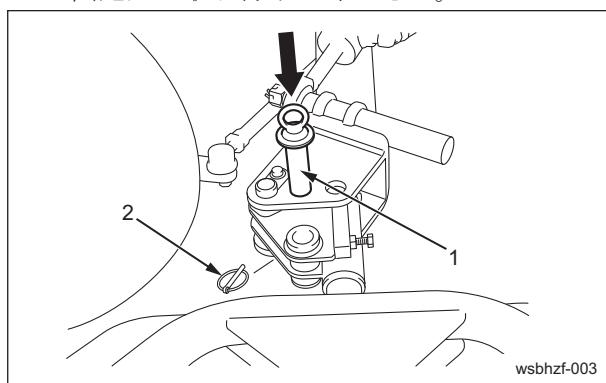
2. モアデッキを引き出してください。



#2・#3 モアデッキ_002

1	モアデッキ
---	-------

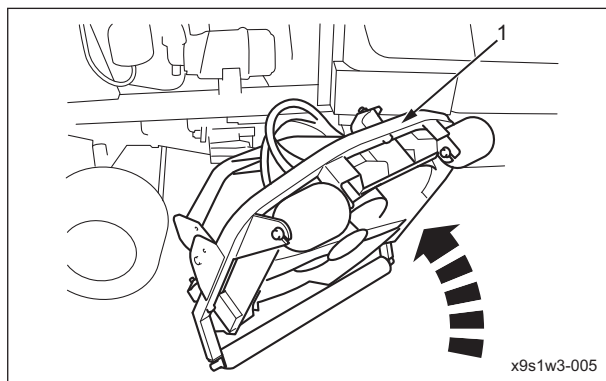
3. 握り付ピンとクリップピンをメンテナンス用の固定穴に取り付けてください。



#2・#3 モアデッキ_003

1	握り付ピン
2	クリップピン

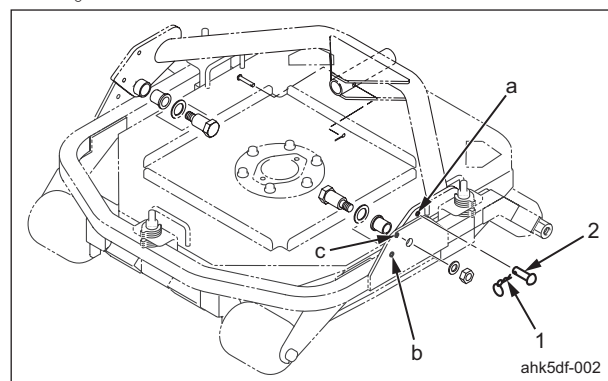
4. エンジンを始動し、モアデッキを上げてください。
5. エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
6. モアデッキを手前に持ち上げてください。



#2・#3 モアデッキ_004

1	モアデッキ
---	-------

7. a 部に差し込んであるスナップピン、焼き入れ丸頭ピンを取り外し、b 部に差し込んでください。

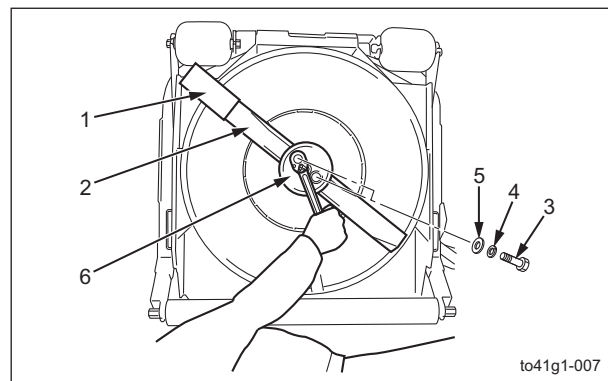


#2・#3 モアデッキ_005

1	スナップピン
2	焼き入れ丸頭ピン

8. 以下の要領で、ロータリーナイフを取り外してください。

- [1] 付属工具にある角パイプを使用し、ロータリーナイフが回転しないように固定してください。
[2] ロータリーナイフを取り付けている 2 本のボルト、S ワッシャー、ワッシャーを取り外してください。
[3] ナイフガイドを取り外してください。
[4] ロータリーナイフを取り外してください。



#2・#3 モアデッキ_006

1	角パイプ
2	ロータリーナイフ
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	ナイフガイド

メンテナンス

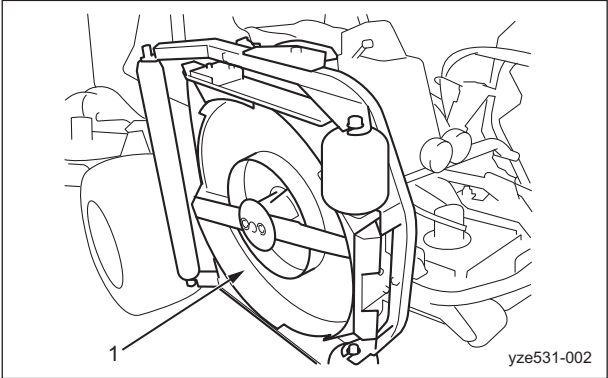
重要

ナイフ取り付けボルトの締め付けトルクは、67 - 85 N-m (683.20 - 866.75 kgf-cm) です。

9. ロータリーナイフを取り付けてください。
取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

#4・#5 モアデッキ

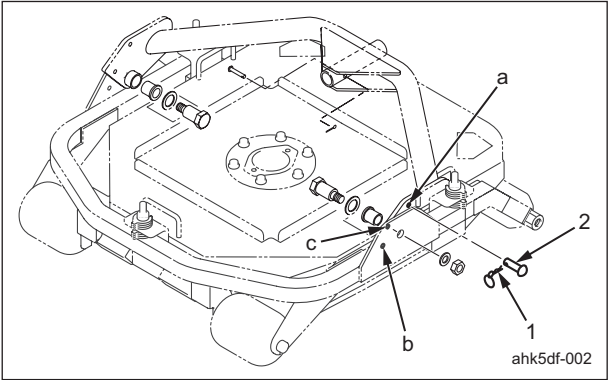
1. エンジンを始動し、モアデッキを上げてください。



#4・#5 モアデッキ_001

1	モアデッキ
---	-------

2. エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
3. a 部に差し込んであるスナップピン、焼き入れ丸頭ピンを取り外し、c 部に差し込んでください。

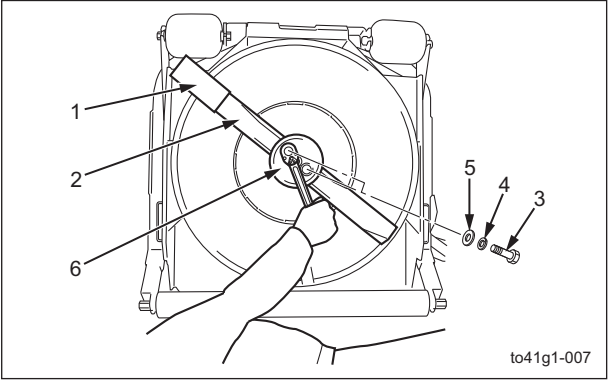


#4・#5 モアデッキ_002

1	スナップピン
2	焼き入れ丸頭ピン

4. 以下の要領で、ロータリーナイフを取り外してください。
[1] 付属工具にある角パイプを使用し、ロータリーナイフが回転しないように固定してください。

- [2] ロータリーナイフを取り付けている 2 本のボルト、S ワッシャー、ワッシャーを取り外してください。
[3] ナイフガイドを取り外してください。
[4] ロータリーナイフを取り外してください。



#4・#5 モアデッキ_003

1	角パイプ
2	ロータリーナイフ
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	ナイフガイド

重要

ナイフ取り付けボルトの締め付けトルクは、67 - 85 N-m (683.20 - 866.75 kgf-cm) です。

5. ロータリーナイフを取り付けてください。
取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

ロータリーナイフの研磨

⚠ 注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

⚠ 注意

ロータリーナイフは、磨耗が進んだり、破損した場合は、セイル部と平坦部との間に割れ目やちぎれが発生します。
ロータリーナイフが回転中にちぎれて飛び出す場合がありますので、十分に気をつけてください。

⚠ 注意

ロータリーナイフの研磨は、必ず保護メガネ、手袋を着用して行ってください。

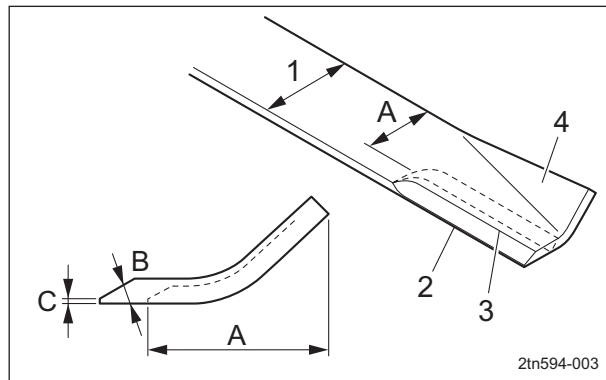
重要

ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損するおそれがあります。

ロータリーナイフの研磨とは、ロータリーナイフの刃先が丸みを帯びて切りづらくなった場合、刃先の減ったところをグラインダーまたは、サンダーにて削り、研ぐ作業のことです。
刃先が欠けたり、薄くなった場合は、新しいロータリーナイフに交換してください。
ロータリーナイフの研磨が行える基準は、以下のとおりです。

1. 研磨後、ロータリーナイフの刃先までの幅が、新品の全幅の 2/3 以上残る場合。

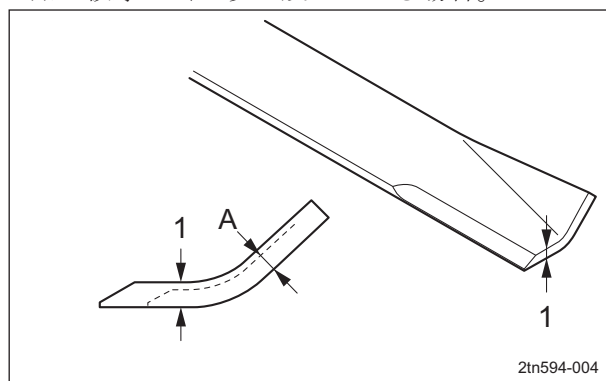
2. 研磨後、ロータリーナイフの刃元が、セイル部にかからない場合。



ロータリーナイフの研磨_001

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 以上
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in)

3. ロータリーナイフの最も薄い場所の板厚が、新品の板厚の 1/3 以上残っている場合。



ロータリーナイフの研磨_002

1	板厚
A	1/3 以上

ロータリーナイフの研磨は、以下の手順で行ってください。

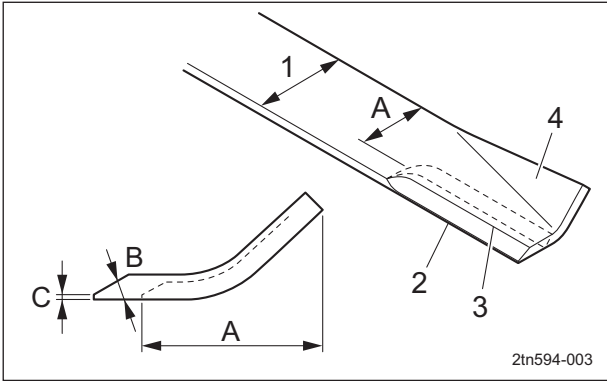
1. ロータリーナイフをモアデッキから取り外してください。
「ロータリーナイフの交換」(Page 5-9)

メンテナンス

重要

研磨は、刃先の上面のみに行い、刃先の元々の角度を変えないように注意してください。
ロータリーナイフの左右を均等に削れば、バランスを狂わすことなく研磨を行うことができます。

2. ロータリーナイフの刃先を研磨してください。
刃先の角度は 30 - 40°、刃の先端の厚みは 0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in) とし、刃元がセイル部にかからないように研磨してください。



ロータリーナイフの研磨_003

1	全幅
2	刃先
3	刃元
4	セイル部
A	2/3 以上
B	30 - 40°
C	0.5 - 1.0 mm (0.02 - 0.04 in)

3. バランス取りを行ってください。
「ロータリーナイフのバランス取り」 (Page 5-14)
4. バランスが取れていない場合は、2. - 3. を繰り返して行ってください。

ロータリーナイフのバランス取り

注意

ロータリーナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

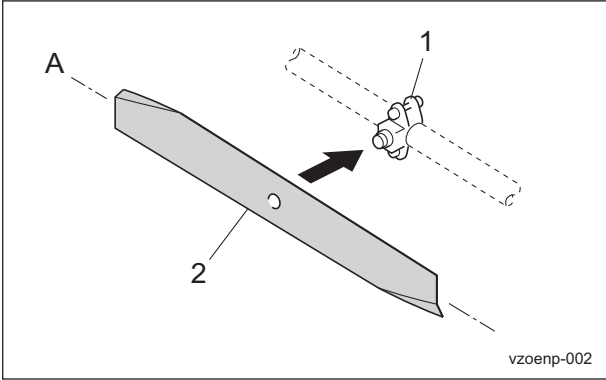
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

重要

ロータリーナイフはバランスが崩れたまま使用すると、振動が出て機械が破損するおそれがあります。

バランス取りとは、ロータリーナイフが片減りして振動が出たり、切れ味が悪くなり研磨した場合に、ロータリーナイフをモアデッキから取り外してバランスを取る作業のことです。
ロータリーナイフのバランス取りは、以下の手順で行ってください。

1. ロータリーナイフをモアデッキから取り外してください。
「ロータリーナイフの交換」 (Page 5-9)
2. バランス取り装置を適当な場所に取り付けてください。
3. ロータリーナイフの中央の穴をバランス取り装置にはめ込み、ロータリーナイフが水平になるように左右のバランスを取ってください。



ロータリーナイフのバランス取り_001

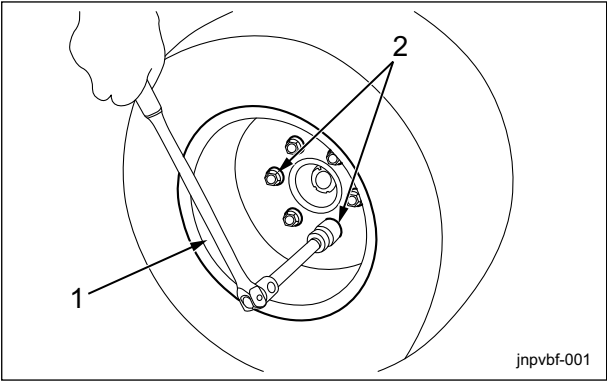
1	バランス取り装置
2	ロータリーナイフ
A	水平

タイヤの脱着

前輪タイヤ

前輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



前輪タイヤ_001

1	前輪タイヤ
2	調質ボルト

2. 前部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-4)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

重要

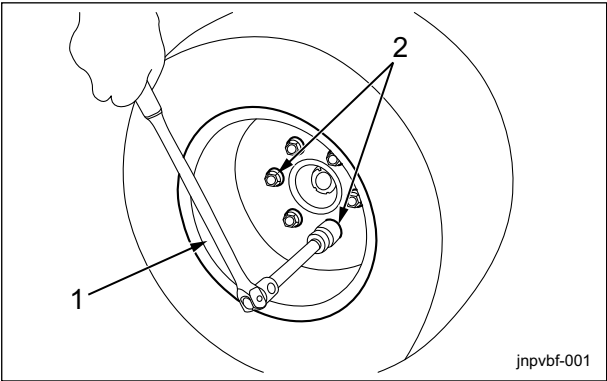
ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

前輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



後輪タイヤ_001

1	後輪タイヤ
2	調質ボルト

2. 後輪モーター下部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-4)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

重要

ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整

警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

重要

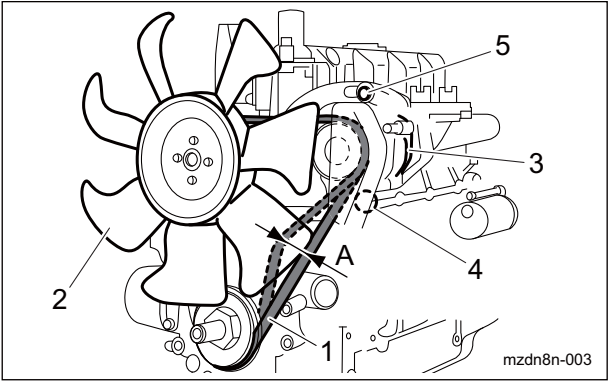
ベルトの張り具合の確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。
必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

メンテナンス

ファンベルト

- 1. ベルトの中央部を指で押さえて、張り具合を確認してください。
- 2. ベルトの張りが適正でない場合は、オルタネーターを取り付けているボルト A、ボルト B を緩め、オルタネーターを動かして調整してください。



ファンベルト_001

1	ファンベルト
2	ブレード
3	オルタネーター
4	ボルト A
5	ボルト B
A	7.0 - 9.0 mm (0.28 - 0.35 in)

ブレーキの調整

⚠ 注意

ブレーキワイヤーに亀裂、破損が無いことを確認してください。

重要

ブレーキディスクとライニングパッドのすき間が大きくなり、ブレーキの効が悪くなってきたらすき間調整をしてください。
ワイヤーは微調整に使用します。

重要

ブレーキの調整は、ライニングパッドで行ってください。

ライニングパッドの磨耗限界は、3.0 mm (0.12 in) です。



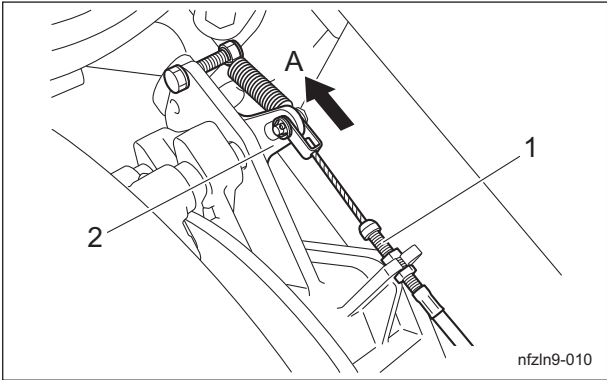
ブレーキの調整_001

1	ブレーキディスク
2	ライニングパッド

重要

レバーが開放位置（ニュートラル）に保持されていることを必ず確認してください。

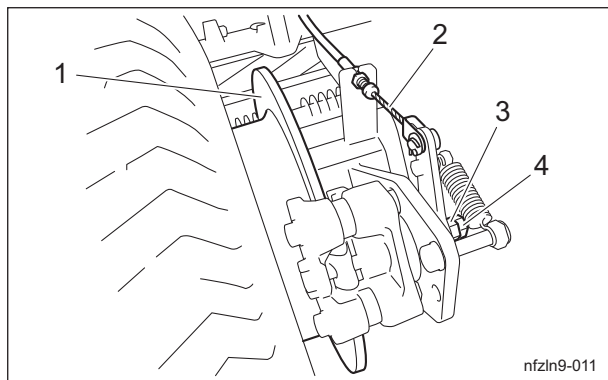
- 1. 両輪のブレーキディスク側のアジャストボルトのねじを奥まで締めてください。



ブレーキの調整_002

1	アジャストボルト（ブレーキディスク側）
2	レバー
A	開放（ニュートラル）

2. ロックナットを緩め、調節ナットを締め込んでいくとすき間が小さくなります。
調節ナットをディスク摩擦面にライニングパッドが接触するまで締め込んでください。



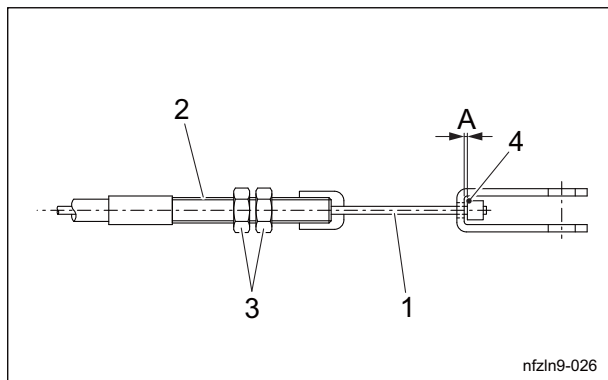
ブレーキの調整_003

1	ブレーキディスク
2	ワイヤー
3	調節ナット
4	ロックナット

**警告**

ブレーキディスクとライニングパッドのすき間が小さすぎると発熱し火災の原因になります。

- 調節ナットを緩め、ブレーキディスクとライニングパッドのすき間を 0.2 mm (0.0079 in) 程度の適正なすき間に調節してください。
- 前部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、両輪のタイヤが浮くまで上げてください。
- ディスクが自由に回転することを確認してください。
- 調節ナットを保持した状態で確実にロックナットを締めてください。
- ブレーキペダルを踏まない状態で、インナーワイヤーの接合部で 1.0 mm (0.039 in) の遊びをつくってください。



ブレーキの調整_004

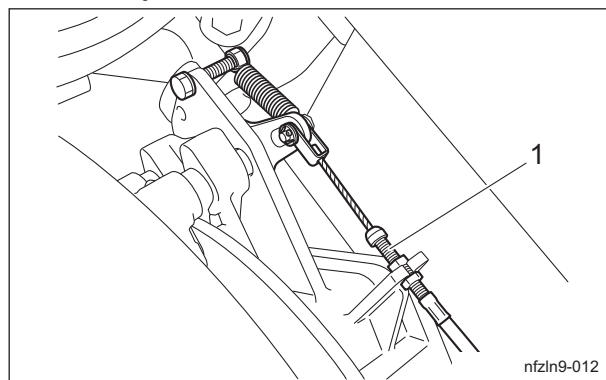
1	インナーワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット
4	接合部
A	1.0 mm (0.039 in)

- ロックナットをスパナで緩め、アジャストボルトで調整した後、締め付けてください。
- 走行した後、以下の確認を行ってください。
 - ブレーキ部が発熱していないことを確認してください。
 - 左右のブレーキの効きが等しいことを確認してください。

**注意**

左右のブレーキの効きが違うと、思わぬ事故をおこすおそれがあります。

- 左右のブレーキの効きが違う場合は、ブレーキディスク側のアジャストボルトで微調整してください。



ブレーキの調整_005

1	アジャストボルト (ブレーキディスク側)
---	----------------------

ブレーキの慣らし方法

ブレーキシューまたは、ブレーキパッドが消耗した場合は新品に交換してください。
交換直後、ブレーキの効きが弱い場合は、ブレーキの慣らし運転をしてください。
走行しながら、軽くブレーキ操作を行い、当たり面をすり合わせてください。

メンテナンス

ピストンポンプの中立位置の調整

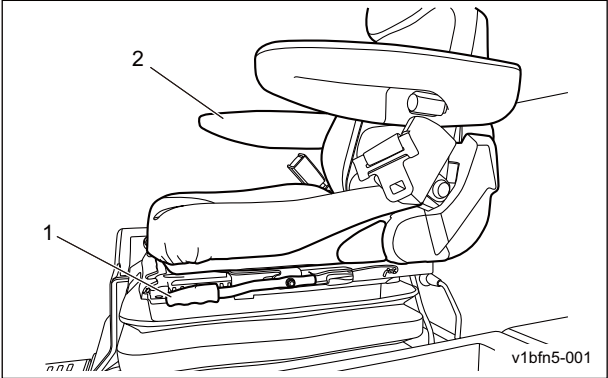
**注意**

回転するタイヤに触れないように注意してください。

**注意**

中立位置の調整を行う際は、この機械が動き出しておそれがあります。
ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、すべてのタイヤが地上から離れるまで機械をジャッキアップしてください。

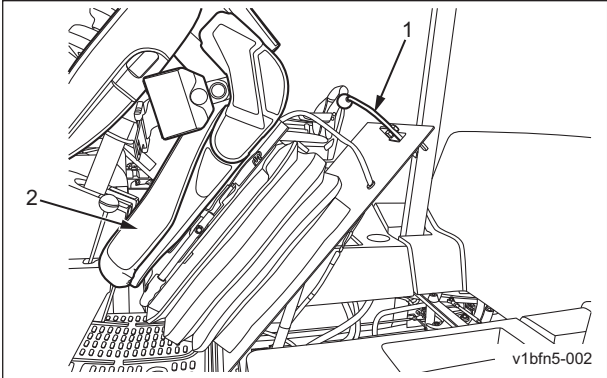
- 走行ペダルを踏んでいない状態で前進または後進する場合は、中立が出ていません。
以下の要領で調整してください。
1. エンジンを停止します。
 2. ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、機械をジャッキアップします。
 3. ジャッキスタンドとタイヤが接触していないことを確認してください。
 4. ハンドルを一番立てた状態にします。
 5. 前後調整レバーを引き、シートを後方いっぱいまでスライドさせます。



ピストンポンプの中立位置の調整_001

1	前後調整レバー
2	シート

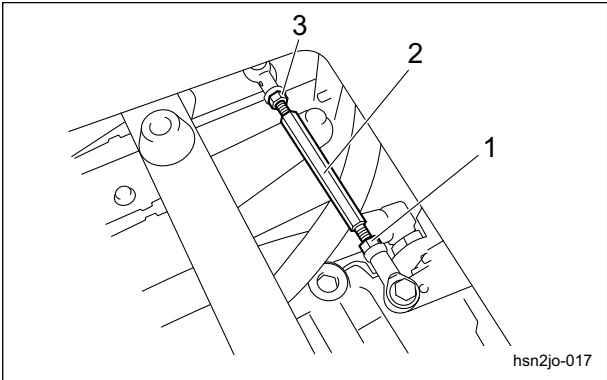
6. レバーを引きながら、シートを上げます。



ピストンポンプの中立位置の調整_002

1	レバー
2	シート

7. エンジンを始動し、エンジン回転数を最高回転にします。
8. 2WD - 4WD 切り替えスイッチを「2WD」側に押します。
9. 中立位置を調整します。
 - [1] 前輪タイヤが前進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、中立調整ロッドを縮める方向に回します。
 - [2] 前輪タイヤが後進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、中立調整ロッドを伸ばす方向に回します。



ピストンポンプの中立位置の調整_003

1	ロックナット A (左ねじ)
2	中立調整ロッド
3	ロックナット B (右ねじ)

10. 前輪が止まる位置を見つけ、ロックナットで固定します。

冷却水の交換

⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

⚠ 注意

交換はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

⚠ 注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が吹き出し、火傷をするおそれがあります。水温および、圧力が下がってからキャップを厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

重要

冷却水を交換する場合は、冷却水を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

冷却水を交換する場合は、必ずきれいな水と不凍液（ロングライフクーラント）を混合し、ラジエーターとリザーブタンクに注入してください。

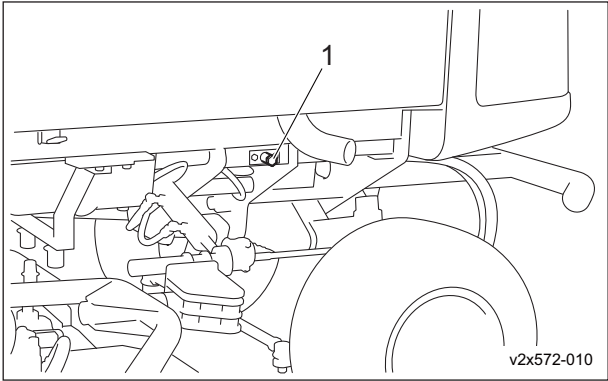
重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンが過熱する可能性があります。

不凍液ときれいな水を混合する場合、不凍液の混合比は以下の「ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係」を参考にしてください。ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係

凍結温度	LLC 濃度（容量%）
-10 °C（14 °F）まで	20 %
-15 °C（5 °F）まで	30 %
-20 °C（-4 °F）まで	35 %
-25 °C（-13 °F）まで	40 %

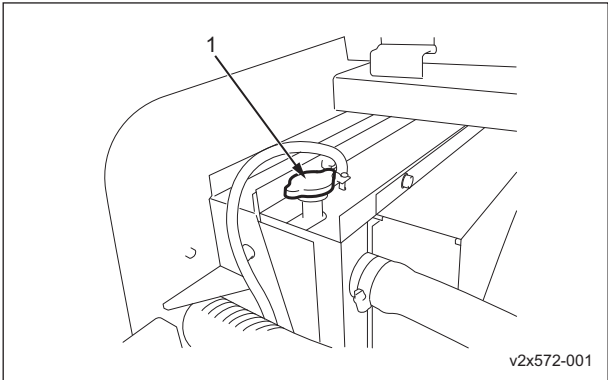
1. エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
2. ボンネットを開けてください。
3. 以下の要領で冷却水を排出します。
 - 〔1〕冷却水を受ける容器を置いてください。
 - 〔2〕ラジエーターの排出プラグを取り外してください。



冷却水の交換_001

1 ラジエーター排出プラグ

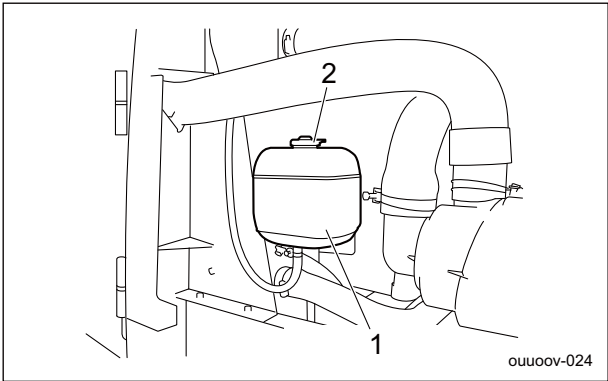
- 〔3〕ラジエーターキャップを取り外してください。



冷却水の交換_002

1 ラジエーターキャップ

- 〔4〕リザーブタンクを取り外してください。



冷却水の交換_003

1 リザーブタンク

2 リザーブタンクキャップ

- [5] リザーブタンクのキャップを開け、冷却水を排出してください。
4. リザーブタンクを取り付けてください。
5. きれいな水でゴミやさびが出なくなるまで、ラジエーターを洗浄してください。
6. ラジエーター内の水をすべて排出してください。
7. 以下の要領で冷却水を満たします。
冷却水容量は、リザーブタンクを含み、12.0 dm³ (12.0 L) です。
- [1] 排水プラグを取り付けてください。
- [2] ラジエーターキャップの口元まできれいな水と不凍液をラジエーターに入れてください。
- [3] ラジエーターキャップを閉めてください。
- [4] リザーブタンクの「FULL」まできれいな水と不凍液を入れてください。
- [5] リザーブタンクのキャップを閉めてください。
8. エンジンを始動し、数分間運転して空気抜きをしてください。
9. エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
10. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認し、必要があれば補給してください。
11. ボンネットを閉めてください。

油圧作動油の交換

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

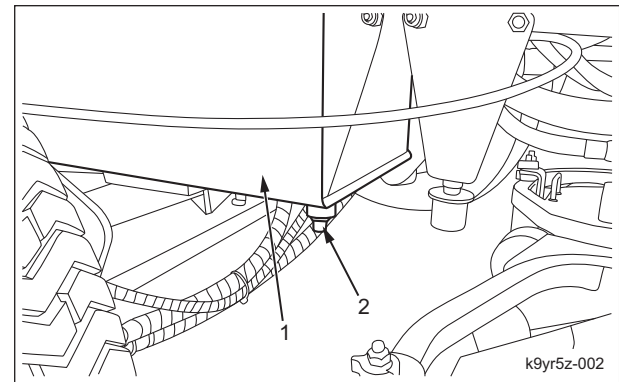
重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

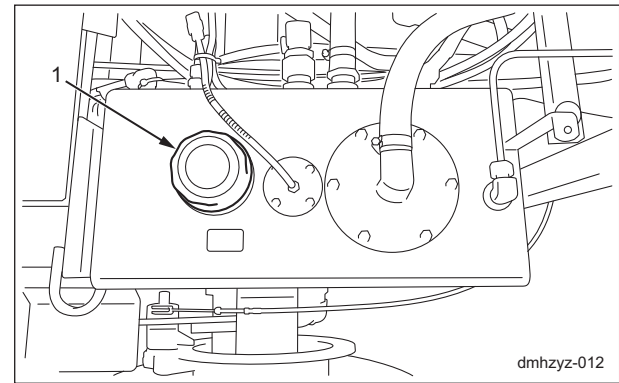
1. 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。
- [1] エンジンを始動し、作動油を温めてください。
- [2] 水平な場所で、モアデッキを下げ、エンジンを停止してください。
- [3] 油圧タンクのドレンプラグを外し、古い作動油を容器に抜き取ってください。
- [4] ドレンプラグに新しいシールテープを巻き直し、油圧タンクに再び取り付けてください。



油圧作動油の交換_001

1	油圧タンク
2	ドレンプラグ

2. タンクカバー左を取り外してください。
3. タンクキャップを開け、注入口から新しい作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。
油圧タンク容量は、約 44.0 dm³ (44.0 L) です。



油圧作動油の交換_002

1	タンクキャップ
---	---------

4. タンクキャップを確実に閉めてください。
5. エンジンを始動し、モアデッキを上げ下ろし、左右にハンドルを切ってください。
前後進を数度繰り返してください。

- 6. 水平な場所でモアデッキを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
- 7. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。
- 8. タンクカバー左を取り付けてください。

油圧オイルフィルターの交換

油圧オイルラインフィルターの交換

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

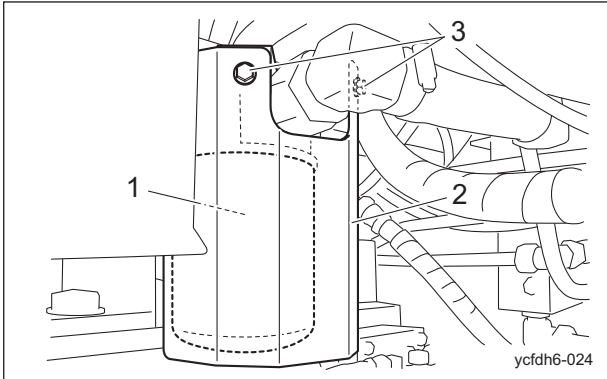
重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

- 1. 水平な場所で、モアデッキを下げ、エンジンを停止してください。
- 2. フィルター保護板を取り外してください。

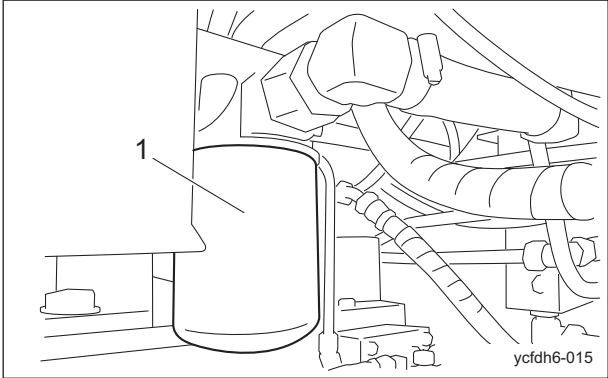


油圧オイルラインフィルターの交換_001

1	フィルターカートリッジ
2	フィルター保護板
3	ボルト

- 3. 古いフィルターカートリッジを手で緩めて取り外してください。

- 4. 新しいフィルターカートリッジのパッキンに作動油を薄く塗布し、取り付けてください。
 - 5. パッキンが取り付け面に当たるまでフィルターカートリッジを手で確実に締め付けてください。
- その後、さらに 1/2 回転締め付けてください。



油圧オイルラインフィルターの交換_002

1	フィルターカートリッジ
---	-------------

- 6. 油圧作動油を規定量まで補給してください。「油圧作動油の補給」(Page 4-5)
- 7. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
- 8. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。
- 9. フィルター保護板を取り付けてください。

メンテナンス

油圧オイルサククションフィルターの交換

 **注意**

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

 **注意**

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

 **重要**

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

 **重要**

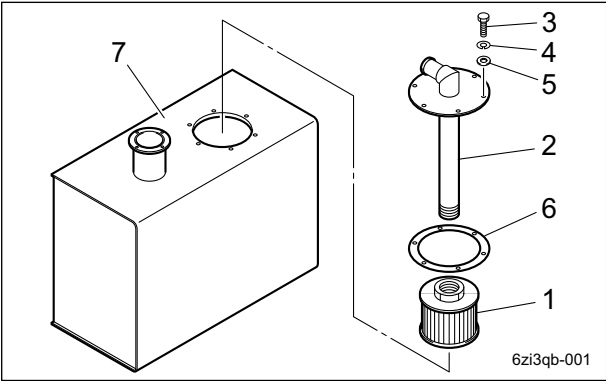
作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

 **重要**

吸入口パッキンは、新品に交換してください。

1. 水平な場所で、モアデッキを下げ、エンジンを停止してください。
2. タンクカバー左を取り外してください。
3. ボルト、S ワッシャー、ワッシャーを取り外し、吸入用ホース継ぎ金具を取り外してください。
4. 古いサククションフィルターと吸入口パッキンを取り外してください。
5. 油圧タンクの古い液状ガスケットをきれいに取り除いてください。
6. 吸入用ホース継ぎ金具の吸入口パッキンと古い液状ガスケットをきれいに取り除いてください。
7. 吸入用ホース継ぎ金具をきれいに洗浄してください。
8. 新しい吸入口パッキンに液状ガスケットを塗布して、吸入用ホース継ぎ金具に取り付けてください。
9. 新しいサククションフィルターを吸入用ホース継ぎ金具に取り付けてください。

10. 吸入用ホース継ぎ金具を油圧タンクに取り付けてください。



油圧オイルサククションフィルターの交換_001

1	サククションフィルター
2	吸入用ホース継ぎ金具
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	吸入口パッキン
7	油圧タンク

11. タンクカバー左を取り付けてください。
12. 油圧作動油を規定量まで補給してください。
「油圧作動油の補給」(Page 4-5)
13. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
14. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
 - [1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
「エアクリーナーの清掃」(Page 4-6)

エンジンオイルの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

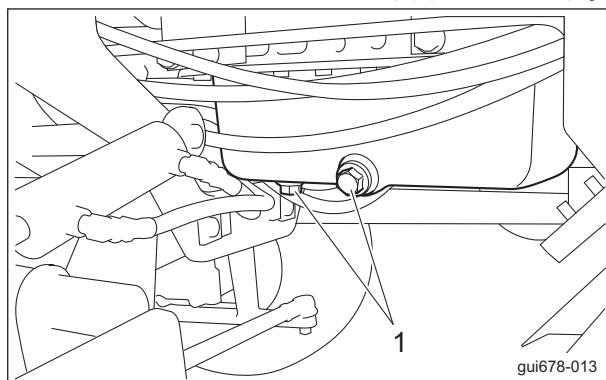
エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止します。
2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを外し、エンジンオイルを容器に抜き取ります。
3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けます。

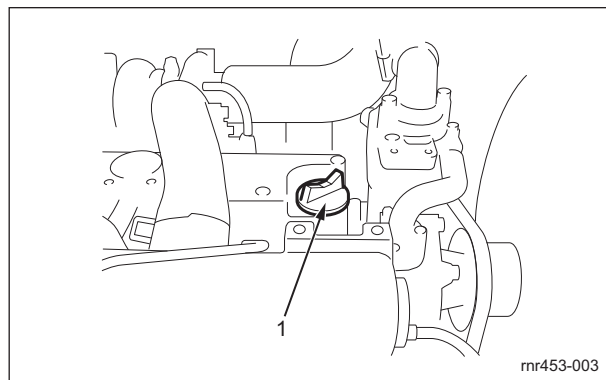


エンジンオイルの交換_001

1	ドレンプラグ
---	--------

4. オイルフィルターより、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れます。
エンジンオイル量は、約 9.7 dm³ (9.7 L) です。

5. オイルフィルターキャップを閉めてください。



エンジンオイルの交換_002

1	オイルフィルターキャップ
---	--------------

6. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。
補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。
7. 機械の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

エンジンオイルフィルターの交換

**注意**

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルフィルターを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

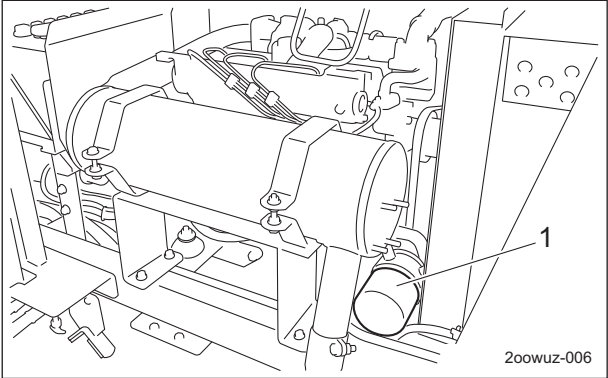
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

1. 古いフィルターカートリッジをフィルターレンチで取り外してください。



エンジンオイルフィルターの交換_001

1	フィルターカートリッジ
---	-------------

2. 新しいフィルターカートリッジのパッキンにエンジンオイルを薄く塗布してください。
3. フィルターカートリッジを手でねじ込み、シール面にパッキンが接触してから、フィルターレンチを使用せず手でしっかり締め付けてください。
4. エンジンオイルを規定量まで補給してください。
「エンジンオイルの補給」(Page 4-9)
5. エンジンを始動し、10 - 20 分後に停止してください。
6. フィルターカートリッジのシール面から油漏れが無いことを確認してください。

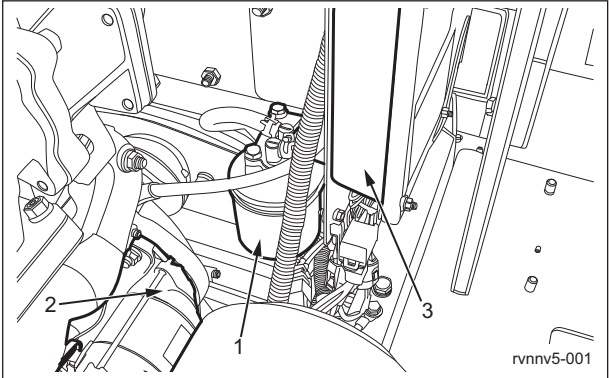
7. エンジンオイルの油量を確認してください。
少ない場合は、エンジンオイルを規定油面まで補給してください。

燃料フィルターの交換

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料噴射ポンプや噴射ノズルが磨耗します。

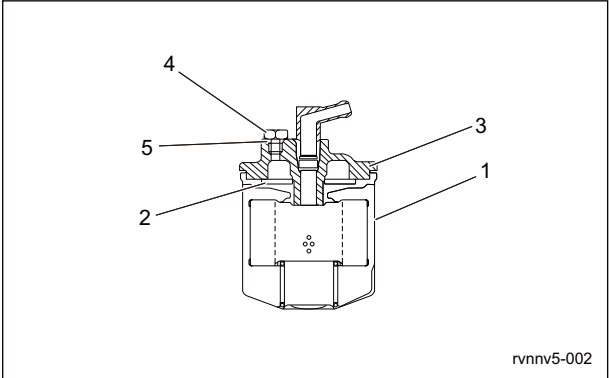
燃料フィルターは、カートリッジ式ですので、分解、清掃はできません。
燃料フィルターは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。
適切な時期に交換するように心掛けてください。



燃料フィルターの交換_001

1	燃料フィルター
2	セルモーター
3	リレーボックス

1. 以下の要領で交換をしてください。
- [1] フィルターレンチで、燃料フィルターのカートリッジを取り外してください。
- [2] 新しいカートリッジのパッキンに燃料を薄く塗布して、フィルターレンチを使用せずに手で十分締め付けてください。



燃料フィルターの交換_002

1	カートリッジ
2	パッキン
3	カバー
4	エア抜きプラグ
5	O リング

2. 交換後、キースイッチを ON にし、燃料ポンプが作動すると、自動で空気抜きができます。

ヒューズの交換

ヒューズボックス



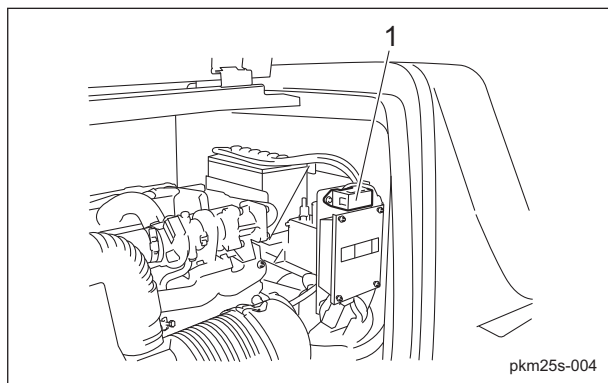
警告

電気システムのメンテナンスを行う場合は、必ずバッテリーのマイナス配線を取り外してください。

重要

ヒューズが切れた場合は、電気回路内で短絡が生じている可能性があります。
端子の接続不良、配線、端子の損傷、配線の組み間違いなど、原因を調べてください。

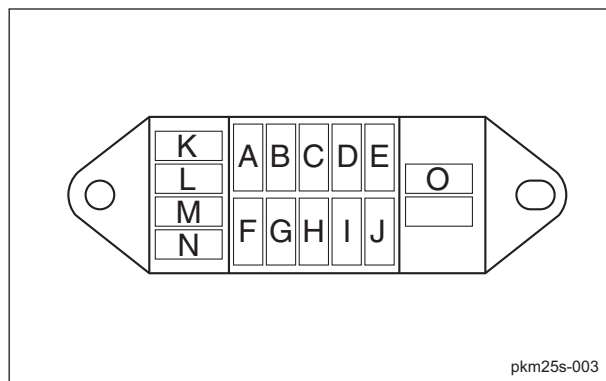
ヒューズボックス内にスペアヒューズ、交換工具が付属されています。



ヒューズボックス_001

1	ヒューズボックス
---	----------

ヒューズは、自動車ミニヒューズです。
規定容量のものと交換してください。



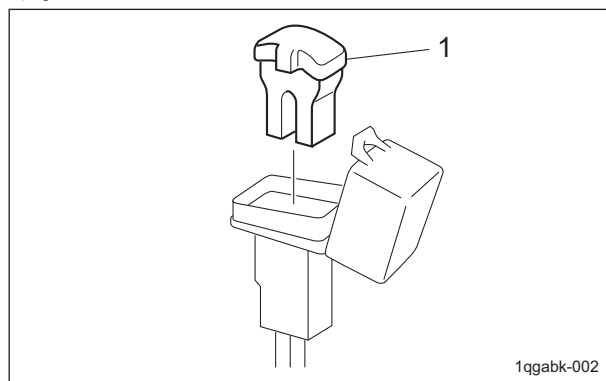
pkm25s-003

ヒューズボックス_002

A	5 A	タイマー
B	5 A	サーモスタートランプ
C	5 A	タコメーター、燃料計、水温計、チャージランプ、オイルプレッシャー（エンジン油圧）ランプ、水温ブザー、作動油ブザー
D	15 A	リレーボックス 1、デフロック、（アシストスイッチ）
E	15 A	リレーボックス 2、2WD/4WD 切り替え、#4/#5 近接 SW
F	-	-
G	5 A	タイマー
H	5 A	オルターネーター
I	5 A	燃料ポンプ、セーフティーリレー、停止ソレノイド
J	5 A	リレー（セルモーター）
K	5 A	スペア
L	5 A	
M	15 A	
N	15 A	
O	ヒューズ抜き用具	

ヒューズブルリンク

ヒューズブルリンクのヒューズ容量は、50 A です。



1qgabk-002

ヒューズブルリンク_001

1	ヒューズブルリンク
---	-----------



株 式 会 社 共 栄 社

〒442- 8530

愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84 - 1221

FAX (0533) 84 - 1220